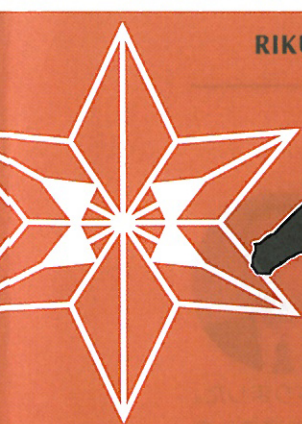




# 六稜舎報

## 創立130周年報告号

### INDEX

#### ●六稜会館

##### 運営委員会報告

岡田一彦(65期) .....10

##### 六稜トークリレー2004

##### 上半期ラインナップ

六稜会館運営委員会 .....11

##### 六稜トークリレーReports2003

河津清子(64期) .....12

賀和田明(67期) .....13

日高敦洋(92期) .....13

井根あゆ美(103期) .....14

#### ●支部活動

##### 東京六稜会だより

大山利雄(56期) .....15

##### PARTY REPORTS .....16

大阪市大医学部六稜会、なにわことはのつどい第21回総会、戦争体験芝居「殺生なこたわり」、能と現代劇のコラボレーション「大原御幸異聞」、酒井優行油彩画展、六稜会館映画鑑賞会「阿弥陀堂だより」、藤部明子写真展「The Hotel Upstairs」、シモエ近藤 オリジナルビスクドール展、劇団ASAミュージカル「額田女王」に奥田和夫さん、北岡樹 in 大阪ブルーノート、東京国際女性映画祭に植坪監督の最新作、73期ミニ同期会、六稜58期「喜寿の祝い」同期会、六稜66期同期会、六稜85期卒業30周年記念同期会、六稜76期同期会、六稜ゴルフ第10回ジュニア大賞戦、船場大阪を語る会に阿部源三郎さん(50期)、「Project-K」第一回セミナー報告、美美館X'masNight2003、67期同期会【予告】

#### ●事務局だより#008

##### 事務局スタッフ本音トーク

久保田静(71期)、小林元子(73期)、藤本鈴乃(84期)、花井洋子(86期) .....24

##### 事務局長選任にあたりまして

新原章弘(65期) .....24

##### スタッフ紹介

小林元子(73期) .....25

##### 六稜文庫

「谷崎潤一郎と大阪」、「道教の房中術」、「こんな夜更けにバナナかよ」、「The Hotel Upstairs」 .....26

##### 母校の窓

第5回文芸祭、近畿大会出場激励金、表彰報告、国際交流活動、おくやみ、116期学年理事、クラブだより .....28

##### 鎌田教頭の横顔

菅 正徳(69期) .....32

#### ●巻頭言

##### 創立130周年記念行事を終えて

稲畑勝雄(56期)、中垣芳隆 .....2

#### ●特集：創立130周年

##### 記念祝賀会・講演【要旨】

##### 「一流を取材して感じたこと」

有働由美子(99期) .....3

##### 有働さんのこと

松下 勝(99期) .....3

##### 記念行事～参加者の声

松山時男+中田義彦 .....4

野球部1年生 .....4

上山 直(110期) .....4

服部友紀(3年) .....5

##### 130周年の舞台裏

鎌田俊一(81期) .....5

##### 記念祝賀会～当日概況報告

上田哲也(84期) .....6

##### 祝賀会マニュアル

尾崎孝雄(58期) .....6

橋本 隆(79期) .....7

##### 記念音楽会

##### 「北野は音楽学校になったのか？」

野口藤三郎(53期) .....8

##### 六稜会館オープニングセレモニー

岡田一彦(65期) .....12

NO.42  
2004.3.1

Photo : SUEMATSU Masanobu

創立130周年式典の直前に完成した正門  
昭和校舎屋上に聳えた「北中」のレリーフが横でお迎え



# 創立130年記念行事を終えて

六稜同窓会 会長  
稲畑勝雄(56期)



秋晴れの爽やかな好天に恵まれた平成15年11月1日(日)、母校体育館において創立130周年記念式典が中垣芳隆校長先生以下教職員、在校生、PTA、六稜同窓会役員らが太田知事以下、教育委員会、各高校長、旧職員ら多数の来賓をお迎えして総勢約1300人、厳かの中にも晴れやかに執り行われました。引き続き11時から、皆様の募金により建設された同窓会館のオープニングセレモニーが挙行されました。さらに午後には中之島の国際会議場「グランキューブ大阪」において盛大な祝賀会が開催され、竹内脩教育長ほか各界のご来賓を迎えて総勢約700人の華やかな集いとなりました。

当日はこれらと並行して、記念演奏会、映写会、展覧会、スポーツイベントが催され、NHKキャスター有働由美子さん(99期)には午前と午後の2回にわたって記念講演をしていただきました。実に北野高校130年の伝統と実力が遺憾無く発揮された有意義でかつ盛り沢山な一日であったといえましょう。この行事を支えて準備してくださった各位に、また当日ご参加いただいた同窓会員の皆様と更には会費納入、ご寄付その他あらゆる手段でご協力頂いた各位に心からお礼申し上げます。

私達の六稜同窓会はその校歌にあるごとく、その昔難波御堂に堂島に次ぎて北野に…と旧制中学から現高校へと連綿たる130年の歴史と伝統を誇る全国でも有数の同窓会です。祝賀会の挨拶で大山利雄副会長がいみじくも言われましたように老人から若い卒業生までも皆が同じ校歌を歌える幸せを共有しているのです。今年3月には116期卒業生360名を新会員として迎えます。もはや女性会員も約半数を占めています。同窓会にはますます若い皆様のお力が必要です。皆様のご協力をお願いいたします。六稜同窓会が21世紀にいつそう発展いたしますよう祈念してご挨拶いたします。

大阪府立北野高等学校 校長  
(六稜同窓会 名誉会長)  
中垣芳隆



日増しに春の訪れの感じられる頃となりました。六稜同窓会会員の皆様にはご清祥にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また平素から母校の教育の充実・推進に格別のお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。

蕉翁の、月日は百代の過客という言葉を待つまでもなく、創立130周年記念式典を挙行了した日から、早くも数ヶ月が経ちました。同窓会員の皆様方には、改めて衷心より御礼申し上げます。六稜会館のオープンセレモニー並びに採納式とあわせ、記念すべき事跡として校史に刻むことができました。

太田房江大阪府知事を始め錚々たるご来賓をお迎えし、凜とした雰囲気の中で行われた厳粛な記念式典、六稜会員の浄財の結晶である六稜会館のオープンセレモニー、そして99期有働由美子氏の記念講演、在校生とOBによる記念音楽会における見事なハーモニーと…すべての行事が、北野を愛する人々の思いの総和として、間然するところなくとり行われました。

行事の合間に、完成なった校舎のそここで語らう人々の輪、同窓生、旧職員、あるいは保護者の方々の晴れやかな笑顔と、新しく北野の風景の仲間入りをした六稜天文台と笹部桜の森とが、平成の新校舎に花を添えておりました。

六稜の輪の中に身を置き、その歴史と伝統から発せられるエネルギーを肌身に感じますと、さほどに不思議とは思われませんが、学校・PTAと同窓会とが思いを一つにして、あれほどに見事に取り組む事ができたということは、実は、驚嘆すべき事と、今更ながらに感慨深く、改めて心から感謝を申し上げる次第でございます。

折しも、大阪城の梅林も満開近しとの便りが聞かれます。創立100年を記念しての梅林も、いまや府民の財産としてしっかりと根づきました。今回の創立130周年を機として、六稜の大樹がさらに宙空高く伸びゆくことを確信するとともに、会員の皆様の変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げ、御礼の言葉と致します。





●創立130周年記念祝賀会・講演【要旨】

## 一流を取材して感じたこと ～何がそれを分けるのか

NHKキャスター  
有働由美子(99期)

北野といえばやはりエリートですね。午前には現役の北野生に「必ずしもエリートが成功するか」という講演をしました。北野生のほうが一流になりやすい！という講演です。理由はエリートのほうがルートに乗りやすい分、価値観を創り難いのではないかと思います。

例えばイチロー選手はプロ入りはドラフト一位でもなくレギュラーが確約されていたわけでもなかった。自分で考え生き残らなければいけない。どうすればよいか、徹底的に考え尽くせた。そういう初めから恵まれているという恵まれた環境があった。もちろんその中で、自分を追い込む強さがあったことということだと思います。

一流といわれるプロ野球の中でも、成功者といわれるイチロー選手や松井秀喜選手と、一般のプロ野球選手と違うところを敢えて挙げるとすれば「自分を信じられるかどうか」ではないかと思います。簡単なようでこれは難しい。凡人はすぐに楽になろうとして自分をあきらめてしまいます。だからこそ才能の固まりであるプロの中でも超一流はごく僅かしか生まれない。

ここにおられるほとんどの方が人生の成功者だと思いますが、自分を信じずに成功する方って少ないと思

います。たかが野球にしても、小さい頃から「オレは超一流になるのだ」と思い続け、ようやく数年を経てイチロー選手になるのですから、一般の社会で成功している方は、さらに長い期間よほどの気持ちを持ち続けなくては

はならないと思います。本当に頭が下がります。

私などは一流の北野に入り三流で卒業して、社会人としてアナウンサーとしての成績もピリッくつで、そういう三流だからこそ一流のすごさを伝えることができるのではないかと自分を叱咤激励しています。

阪神の星野さんは「一流でないから三流だからこそ上に文句が言えるのだ」と仰います。そういう意味でも、今現場でどたばたと走っている立場で、大いに文句も言い、NHKという会社の中でまだやれていないことにどんどんトライしようと思っています。最後は「三流だから失敗してもしょうがない」と言い訳しながら一歩でも一流に近付く…という一流のエキスを吸い、三流の立場だからこそ見えることできることを貪欲に探し、少しでも皆さんの生活に、心に届く放送をお届けしたいと思います。

北野を卒業して良かったことは、先輩方にいろいろな人を紹介して頂いたことです。同窓生というだけで皆さん良くして下さいなんです。130年の歴史を培ってこれ、そんな中で三流の私を送り出してください。そんな懐の深い穴穂魂に手を合わせて拝みつつ、すべての同窓生に感謝し、日々精進していこうと思います。

「有働由美子」こと有働さんとは、北野に入る以前からの知り合いだ。ただ、中学校や小学校が同じだった訳ではなく、「少年都市交歓活動」という名の大阪府は豊中市と愛媛県の大三島町の中学生同士の交流会で出会ったのが最初という、少々変わった出会いである。その交流会で偶々同じ班になったのが、今やNHKの顔ともなった有働嬢その人だった。

その後私も有働さんも…おりこうサンだったのだろう（ちょっと自慢入ってます）、めでたく共に北野へ進学し、1年の時は同じクラスとなった。だから彼女とは二十年來の知り合いとなる訳だが、この二十数年間ずっと交流があったかとなると、少し正確ではない。2年からは別々のクラスになったし、部活も彼女は剣道部で私は陸上部だったから、北野在学中に限ってても一年そこの付き合いでしかない。その後卒業してから今回の130周年記念総会まで会うこともなかったのだから、「二十年來の知己です」などと云っては彼女に怒られるかもしれない。

でもそこは彼女のアナウンサーという仕事の良い所で、同期（99期）も皆そうだろうと思うが、テレビを通して何かちよくちよく会ったような気になっている。特に私個人としては、社会人としての生活を東京ではじめて日の朝、たしか「おはよう日本」のキャスターを務める彼女を画面に見出した時の印象は、今でも鮮烈だ。初めての社会人。それも右も左も分からぬ東京の街へ引っ張り出されて不安一杯だった頃に、懐かしい彼女の声は何よりの励みだった。

そして今年。講演(2回目)の冒頭にムコ探しをアピールする彼女の第一声を聞いて、失礼ながら笑いを禁じえなかった。と同時に会場のグランキューブ一杯に聴衆を集めるほどの「顔」を持ちながらも、そういうことを言っている彼女の姿に「有働由美子は健在だな」との印象も強くした。

講演後の懇親会では、当然のように写真責め握手責めでとても飲食どころではなかった彼女。会も終わり、やっと同期や後輩の集まる私たちのテーブルにたどり着いた

と思ったら開口一番「元を取ら



なきゃ」と言ってそこらの料理や飲み物を口に流し込み始めた。「君は有名人なんだから」なんて言っても、有働由美子は聞かない。この率直さ、飾り気のなさが又彼女の魅力なのだろう。この後の二次会でも後輩の一人が「初対面の僕に有働サンが気兼ねなく話してくれて感激です！」と目を輝かせていたから、この私の推察は外れてはいまい。そしてこの彼女の魅力が仕事の中でスポーツ選手から本音や名言を引き出し、見る我々にスポーツの持つ厳しさや面白さを伝えてくれているのだろうと思う。

こんな有働由美子は、忙しいアナウンサーの仕事の合間に、お茶もお華も修行した「才女」である（と自分で言っていた）。こんなイイ女はいない（ハズだ）。同窓の男性諸君、今すぐ彼女にアタックしよう！

（まつした・まさる、99期）

有働由美子嬢のこと&花婿募集のお知らせ



## 参加者の声



【テニス部】130周年記念行事としてテニスコート開きを、1週間後にOB・OGの北庭会を開催しました。まず、何とも驚いたのは長老の方々の元気なプレーでした。55期（78歳）と60期（73歳）の兄弟および62期（72歳）のY氏が60歳クラスを相手に全然ひけをとらない試合をされていました。体力・気力とも…「これぞ六稜魂！」がいまだに燃え続けているのだという姿を見せて戴きました。

翌週の北庭会総会には、数年途切れていたにもかかわらず遠方から、また、天気もぐずつき気味であったにもかかわらず、80歳台、70歳台の大先輩がぞくぞくとかけつけて下さいました。いつまでも母校を想って戴いているこの気持ちを、これからも若い方々にも是非受け継いでいていただきたいと思いました。

最後に、コート開きを祝して北庭会よりネット1張り、ボール籠2つ、ボールを寄付していただきました。また同会OB 井田謙三郎氏や江本敬氏（現PTA会長）より複数回にわたってボールを寄贈していただいておりますこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。（北庭会幹事 松山時男／テニス部顧問 中田義彦）

【野球部】OB戦をお手伝いしながら観戦したのですが、ひとつひとつのプレーに一喜一憂するOBの方々の姿に、何か熱いものを感じました。高校時代に培った熱い「魂」を取り戻し、白球を夢中で追いかけたあの頃の気分を味わっていただけたのではないかと思います。

普段から練習を見ていただいている若いOBの方々の真剣勝負には学ぶべきものが沢山あり、ハイレベルなプレーを数多く見せて戴き、僕たち選手も負けてはいられないという気持ちにな

りました。年配のOBの方々のプレーも光っていました。若い投手の豪速球を「負けじ」と見事に打ち返される方もおられ、世代を越えた対決を見て、何か野球というスポーツの素晴らしさを改めて感じることができました。

今回のOB戦では、時を経ても変わらない絆を見ました。僕たちもやがて卒部しOBとなるのですが、いつまでも仲間との絆を大切にしたいと思います。忙しい時に母校へとわざわざ足を運んでいただき、熱いプレーを見せていただいた全てのOBの皆さんに、この場を借りて心からの感謝の意を伝えようと同時に、これからも温かいご支援をお願いします。僕たちも日々努力して、一つでも多く試合に勝ちたいと思います。（1年生部員）

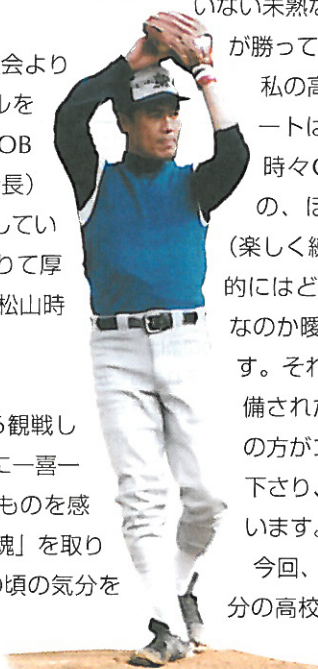
【男子ハンドボール部】130周年記念試合に御招待いただきましてありがとうございました。記念試合、しかも対戦相手は自分の後輩たち…ということで「恥ずかしい試合はしたくない」という気持ちでとても緊張しました。また、高校時代にお世話になった先生方と再会し、教師になった私の姿を見せられるという嬉しさの反面、成長しきれていない未熟な私を見られるという恥ずかしさの方が勝っていて、私の緊張度はピークでした。

私の高校時代を思い出すとハンドボールコートは土とは呼べない硬い地面でしたし、時々OB・OGの方々が来てくださるものの、ほとんど自分たちでメニューを考え（楽しく練習に取り組めてはいましたが）内容的にはどのプレーがよくてどのプレーがダメなのか曖昧なままやっていたような気がします。それに比べ、現在の北野ハンド部には整備されたコートが確保されていますし、OBの方がコーチとして定期的に指導にあたって下さり、練習もきつと充実していることと思います。羨ましく思わずにはられません。

今回、記念式典に出席させていただき、自分の高校時代を振り返るきっかけになり、ま

た、北野の伝統の偉大さに触れることによって気が引き締まりました。ありがとうございました。北野高校の益々の発展をお祈り申し上げます。

（春日丘高・男子ハンド部顧問 上山 直、110期）





【記念展示】学校の古い資料や大先輩の作品は、長く濃い歴史や多くの素敵な先輩方をもつこ北野高校で学ぶことのできる幸運を、私たちに感じさせてくれました。

生き生きしていて今にも動き出しそうな絵、うっとりしてしまうほど綺麗な絵、威厳にあふれた存在感がある絵—展示されていた作品はどれも素晴らしいものでしたが、ひとつひとつのもつ表情は全く違っていたので、見ていて飽きることがありませんでした。

私がこれらの作品を見て感じたことは、「北野生かくあるべし」ということです。つまり、「私たちも一人一人がもつ個性を存分に発揮して輝いてい

たい」と思ったのです。常に六稜碑を胸に秘め、ひたすら前を向いて自分の道を進んでいくことを、心の中で誓いました。

いつまでも北野高校に幸あれ。(服部友紀、3年)



11月1日早朝、学校の資料室でひとときのまどろみから目を覚まし、数日前に完成したばかりの正門前に出ると、秋意蒼天に満つとの言葉を欺かぬすがすがしい青空が広がっていました。当日の朝にも拘わらず、すべてが終わったかのような少し感傷的な気分になったのを憶えています。

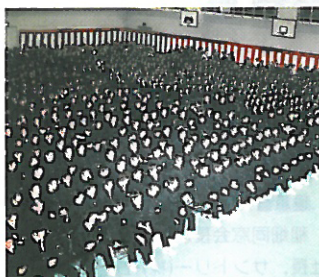
国語科の教員として本校に着任したのが創立110年の前年、120周年には学校側の主担として当時の肥塚教頭先生(72期)とともに関わり、周年行事を迎えることはもうあるまいと思っていましたが、図らずもまた周年の節目に立ち会うことになりました。

あの120周年…フェスティバルホール満場の観客席に響き渡ったオール北野500名による第九シンフォニーの演奏から10年、それは北野にとって大きな変動の10年でもありました。平成6年の新校舎最終設計案決定・建設着工・旧校舎解体・移転、また同窓会館建設の構想から募金開始・着工・竣工、こうした外部環境の変革とともに、平成6年からの二期制への移行、学校週5日制・新学習指導要領の実施を受けての65分授業などさまざまな教育面での内なる変革が進められた時期にあたります。

同窓会は会館の募金・建設に総力を結集し、学校は新たな教育課題に向けて全教職員の精力を注ぐべき時期にさしかかっていましたので、平成12年の130周年記念事業準備委員会発足時に、基本方針として、「華美に流れず簡素で心のこもった記念行事とする」

「新校舎への祝意を含め主会場は学校とする」ことを確認し、同窓会側にもご理解を戴きました。

当初は、会館の竣工記念行事は記念式典に先立つ4月に行うことにしていましたが、校舎工事の関係で正式オープンを校舎完成時まで延ばさざるをえなくなったため、すべての記念行事を同日開催としました。限られた時間とスペースの中に、学校・同窓会双方の



## 130周年の舞台裏

大阪府立北野高等学校 教頭  
鎌田俊一(81期)

記念イベントをどのように組み込むのが最後まで頭を悩ませたところですが、記念式典を学校行事とし、会館のオープンセレモニーを記念講演と同時間帯に同窓会行事として設定し、そのあと午後に、双方の交流の場として、記念音楽会・スポーツイベント・記念展示・記念映像の上映を組むということで、何とか案をまとめました。記念行事それぞれの担当者のご尽力のお陰で充実した内容になりましたが、広報不足とかなり無理なプランニングのため

か、当日の参加者の方々には、十分に堪能できないご不満があったことと思います。改めてお詫び申し上げたいと思います。

記念事業については、笹部桜の森を初めとする緑化事業と71期石川勇氏からご寄付いただいた望遠鏡を据え付けた天文台の設置をその主たる事業と致しました。正門横の笹部桜の森の一角に立てた樹名板に刻んだ次の言葉に、記念事業選定にあたっての思いを読みとっていただければと思います。「日本古来の山桜の美に魅せられ、その生涯と資産のすべてを桜の保全と改良に捧げた桜守・笹部新太郎(17期)ゆかりの桜。創立130周年にあたり、少年時の志のままに生きた新太郎を偲び、この北野が一筋の道につながるそれぞれの夢や志を育くむ場であり続けることを願い、記念植樹とする。」

記念行事に関わったすべての方々のおかげで130周年記念行事は無事終えることができましたが、会館完成後の同窓会には会館を基地として同窓会活動をどう活性化し新たな同窓会運営をどう展開していくか、大きな課題が残されています。学校にとっても新しい校舎を舞台に、不易の伝統の上に北野の教育の新たな地平をどのように切り開いていくか、課題が山積しています。今後とも学校と同窓会相互の協力関係の中で、母校の教育にいっそうのご支援とご理解を賜りますようお願いいたします。



## 当日概況報告

祝賀会司会

上田哲也(84期)

創立130周年記念祝賀会はグランキューブ大阪にて、有働由美子氏による2回目の記念講演の後、15時30分から17時までの予定で開催されました。

私は幹事期である84期のスタッフとして記念祝賀会パーティの総司会役を仰せつかりましたので、当日の概況を報告させて戴きます。

私は公式行事での司会経験など全く無いド素人なので、本番の2週間前になって突然の御指名を受けた時には当惑致しましたが、84期幹事団の石倉君、中原君、黒田君、池田君等のサポートを得ることにより、なんとか使命を果たすことができました。概況と申しまして緊張と興奮状態の連続にて仔細にわたる記憶はございませんので、



備忘録程度  
に捉え

て戴きたいと思います。

【15:40頃】有働由美子氏の講演会場から、隣接したパーティ会場への大移動が始まる。約650名の参加者のうち、69期以上の先輩が約半数に達したため、ビュッフェスタイルでありながらもテーブル席が会場の大半を占めるという異色の会場配置となり、御来賓や旧職員の方々が会場前方まで進んで着席されるまでには相当の時間を要した。

【15:50頃】ようやく会場移動が完了したことを見計らって司会者が開宴を宣し、中垣校長先生から来賓者への謝辞と大阪府教育委員会竹内教育長から祝辞を戴いたあと、鏡開きイベントに移行する。

【鏡割り】灘酒造(73期植田社長)寄贈の清酒「六稜」の四斗樽を、中垣校長、稲畑同窓会長、日本PTA会長、竹内教育長に割って戴く行事であるが、鏡割りの段取りや要領が全く判らない司会者をサポートして戴くために、プロである有働由美子氏に司会をお願いした。有働氏は朝日放送の中原君も巻き込んで、ヨイショ、ヨイショ!と盛り上げて戴き、無事に鏡割りを終えた。さすがに現役プロのお手並みであった。

【乾杯～歓談】東京六稜同窓会大山会長の音頭にて清酒「六稜」で乾杯し、しばし歓談となった。ここまでで司会者も当日ノルマの大半を果たして気

### ●140周年への参考資料として

## 祝賀会マニュアル1

尼崎孝雄(58期:国際交流担当常任理事)

創立130周年記念当日は大変ご苦労様でした。好天に恵まれ大盛會で、お陰さまで無事大役を果たし、皆様から喜び感謝していただいてご同慶の至りです。

私は今回ボランティアでお手伝いをさせて頂いただけで、REPORTさせていただくまでもないと思いますが、わたしたち平素から仲良くしている六稜OBの深い人脈のお陰で、快く協力していただき、総会に花を添えていただきました。

なお、120周年のときは、梶井先輩(52期:故人)と2人で勤めさせていただきました。

### 1.趣意書

稲畑同窓会長からアサヒビール(株)社長、サントリー(株)社長宛に趣意書を発送しました(10月1日)。

### 2.折衝経緯

【リーガロイヤルホテル大阪】前回(120周年)同様、和田慎三氏(60期:元住友銀行専務/銀泉会長)を通じて、部下の安田勇次 常務/本部長にお願いし、飲料の持ち込み、およびできる限りの経費節減の協力を約束していただきました。担当の小林宴会部次長も気配りして精一杯頑張ってくれました。

【アサヒビール】前回同様、松分光朗氏(59期:元アサヒビール副社長)を通じ、池田弘一社長にお願いしました。アサヒスーパードライ×400本の手配を東京本社の角田哲夫秘書課長と打ち合わせしました(10月7日)。

【サントリー】前回同様、大塚卓男氏(61期:元サントリーフーズ社長)に同期の親友の古川能弘氏を通じ、佐治信忠社長にお願いしました。サントリーモルツ×200本、サントリーウイスキー×40本、ウーロン茶×10ケースについて、大阪本社の山本卓彦秘書部長と発送の打ち合わせをしました(10月6日)。

### 3.礼状

稲畑同窓会長からアサヒビール社長、サントリー社長宛に礼状を発送しました(11月7日付)。

140周年の時は時代が大変化して予想できません。然し、何時の世でも、良き友はかけがえのない良き宝、財産と思います。



歓談半ばで、「北野130年」の映像を会場正面に設置した2基の100インチ大型モニターにて紹介したが、会場は各テーブルにて学生時代の思い出を語るOB諸氏の盛り上がりにて、それどころではないという騒然とした雰囲気溢れかえっていた。

そこで幹事期84期を代表して石倉君から閉会のご挨拶と84期スタッフの紹介、来年度幹事となる85期を紹介して、謝辞を述べてお開きとなった。

初めての公式司会が北野130周年記念祝賀会というのは光栄ではありましたが、半端ではないプレッシャーが押し掛かりました。当日午前中は稜声会メンバーとしても母校の多目的ホールのステージに立った後に、おっとり刀でグランキューブに

駆け付けたので、思い悩む閑もありませんでしたが、あーっと言う間に時間が流れ、84期の打ち上げ会、その2次会、3次会にて…気が付けば未明3時頃であり、声も殆んど潰れてしまって、二日酔いどころか、3～4日も余韻を残した祝賀会でありました。



北野が風景印  
のモチーフに

祝して地元の淀川新  
北野郵便局（藤本立美  
局長）が風景入通信日



を設置した。図案は「淀川を南北にまたがる交通の要・十三大橋と府立北野高等学校の六稜会館およびメモリアルウォールと平成淀川花火」。記念式典当日には会館前テラスに特設ワゴンを出店。記念押印に応じたほか、オリジナル『橋シリーズ切手帳』（売価1,000円）なども発行した。お問い合わせは直接、淀川新北野郵便局まで。（電話06-6303-6777）

祝賀会当日、総会担当常任理事（石田、橋本）より、御礼を申し上げたのみで、お世話になりっぱなしとなっておりますが、当日の参加者の喜びが一層盛り上がったことで、ご容赦願う場合がございます。ありがとうございます。



## 北野は音楽学校になったのか？

六稜楽友会 前会長  
野口藤三郎(53期)

2003年秋の北野創立130周年記念音楽会については以前から興味と期待を持っていた。そして、必ず聴きに行く心算でいた。ご丁寧にも音楽科の佐々木信明先生からお誘いのお葉書をいただいた時には、ありがたいことと感謝すると共に恐縮し、かつ感激した。以下、130周年記念音楽会の模様を順を追ってお報せする。

【吹奏楽部】 いい演奏だった。最初、曲を耳にした時、この曲は何だろう？ 聞き馴れた曲なんだが…

…と思ううちに身体が自然に動きだしてきた。そうだな！鉄腕アトムだ！この曲は名曲である。私は『鉄腕アトム』という漫画のストーリーは全然知らないが、曲だけは良く知っている。それほど人口に膾炙した曲である。

※なお、手塚治虫氏は音楽好きで、北野中学（旧制）1年生時代に「音楽部」に在籍だった事をお知らせしておきたい。

続く2曲は（不勉強を白状するが）初めて聞く曲だったが、素晴らしいハーモニーだった。特筆すべきは、3曲を通じて演奏者のプレイに「ミス」が無かったことである。稚拙ではあるが完全に「ノーミス」だった。私は、街のミュージシャンとして50年飯を食ってきた男である。「プロ」の世界では常にノーミスが要求される。ヘマをやれば罵声を浴び、臆になるという厳しい世界である。彼らの練習量たるや、その入り口付近にまで到達しているといえる。これは大した事である。

いずれにせよ今回の吹奏楽部の演奏はいいプレイだった。何よりも素晴らしいことは出演者全員の「真面目さ」「熱心さ」「真摯さ」。その一所懸命さがストレートに聴衆に伝わって来たことだ。

高井達夫 作曲 高沢智昌 編曲  
「鉄腕アトム」

高橋信哉 作曲

「K点を越えて」

指揮：川口晃昌(2年)

M.ワイルソン 作曲

「76本のトロンボーン」

指揮：荒木徹朗(114期)



音楽が人を感動させるのは小手先の技巧やテクニックなどではなく、演奏者の“態度”そのものなのだ。その意味で今回の吹奏楽部の演奏は満点に近かったと言えるだろう。

なお、「プロ」の音楽家であった先輩として一言助言をお許し戴けるなら、どうか「ピアノシモ」を、もっともっと大切にプレイして頂きたい。勇壮華麗な演奏を本命とする吹奏楽ではあるが、私の考えでは「フォルティシモ」には限界があるが「ピアノシモ」には限界がない。それができれば吹奏楽部は更に進歩発展するだろう。学校の成績式に採点すれば《90点》というところか？

### 【コーラス部】少し

前のことだが、コーラス部のある後輩から「いまコーラス部は現役部員がゼロなんです…」

と心配顔で訴えられた。私は過去の思い出を語って笑顔で「心配いりませんよ。歴史と伝統がモノを言います…それが北野です」と答えておいた。

永年、コーラス部は「音楽部」の一部門として活躍してきたが、質的な向上と人員の増加により、昭和40年代に堂々たる「コーラス部」として独立することとなった。OB会である『稜声会』結成に際しては、何といたっても林 和之(86期)と森 知史(92期)らの努力が大きい。

栄枯盛衰は世の習いと言うが、全くその通りで、2003年にコーラス部は見事に息を吹き返した。それにしてもOBの『稜声会』は力強い存在である。

さて、130周年記念音楽会のコーラスの出来は、日本最高水準を行く美しさであった。本来、コーラスというものはハーモニーの美しさを聴かせるものだが、今回のそれは文句無しに最高だった。私の70年にわたる音楽生活のなかで、こんな綺麗なコーラスは稀にしか聴けないと言って良いくらいである。

ここまで来れば、「歌詞」がどうの「発声」がどうの等というような些事は消えて仕舞ってどうで

木下牧子 作曲 混声合唱曲集「うたよ!」より  
「うたよ!」「おんがく」

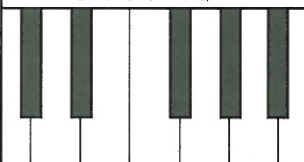
佐藤 真 作曲 混声合唱曲集「たび」より  
「なぎさ歩めば」

S.Paulus 作曲

「PILGRIMS' HYMN」

指揮：坂口和彦(90期)

岡本雅子(104期)





も良くなり、ただうっとりして身体が痺れてくる。

歌声の美しい海に、たゆたい、漂ようとはこういう事なのか……！そういえば、4月の同窓会館ブレ・オープンの時のコーラスも見事な出来だった。

2人の指揮も見事と言う他はない。それにしても、120年の時も指導された坂口和彦君という指揮者は何と素晴らしい指導者だろうか？

そうそう、コーラスの採点を忘れていた。完全無欠の美しいハーモニーだったが、歌い出しに僅かな乱れがあったのを減点して《96点》とする。

【オーケストラ部】今回は指揮者・豊島和史の試みで、オーケストラ部の長い演奏史上初めてのフランスの作曲家ドビュッシーの曲に取り組んだ。曲目を見た時、正直いって「これは大変だ」と思った。

ドビュッシーといえば、それまでの印象主義的音楽家とちがって、極めて個性的かつ“和声学の破壊者”とさえ言われる程のユニークで感覚的な、洗練された近代フランス音楽の作曲家である。「小組曲」とはいえ、難曲でしかも一般には馴染みが薄い。もし、この曲を「130周年記念音楽会」の曲として選んだのが、豊島君ならいざ知らず、現役生の誰かだとすれば全く凄いことだ。まして、この近代フランスの薫り高き感覚的な曲に、真剣に取り組もうとするオーケストラ部の意気込みには最高の敬意を表するものである。

だが、「管弦楽」は難しい……………。

演奏は真剣そのものであった。緊張と真摯さの連続のうちにプレイが終わった。たぶん疲れたことだったろう。終わって、皆がホッとした気分のなかに、聴衆に向かつて一礼した汗だくの指揮者・豊島和史とオーケストラに、盛大な拍手が贈られた。

ただただ、残念だったのは演者の熱演にかかわらず、馴染みの薄い曲であったことと聴衆の少ないことだった。これがホール満員の聴衆であったならば、また違った光景を見せたに違いない。ド

ビュッシーの「小組曲」という選曲も、現役生にとっては初めての曲だったと思われるので、もっと練習時間も必要だったであろう。

ここで特に記して置きたいことは指揮者・豊島和史の過去20年近くにわたる「献身」と「奉仕」である。彼の努力が無かったら、とてもオーケストラの現在は存在しなかったであろう。同時に先輩各位で組織されている六稜楽友会の力も大きい。この豊島和史の「努力」には『六稜楽友会』の全員が、感謝と尊敬を捧げるものである。

だがオーケストラは難しい。諸君の努力には申し訳ないが、採点は厳しく《82点》とする。

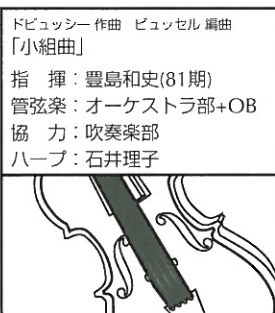
### 【3年生有志【土曜講座組】による合唱】

私の大好きなハイドンだが、これは可もなく不可もないといったところ。しかし現役の3年生のみということを考えてれば立派なものといえる。何度も言うが、その真摯さが何よりも尊く好感を呼ぶ。

素晴らしい態度でさすが「北野」だ。

佐々木先生の指揮もさすがである。指揮とはこういうものだという見本のような美しく完璧な「指揮」だった。演奏も、洗練された美しさであり、伴奏も2年生のみという小規模なものだったが、ピアノもその分を心得たバランスの良い佳い演奏であった。いずれも、高等学校生徒の水準を遥かに越えた、見事さだったと言っていい。我々は、いい先生を持ち得て幸福である。なお、出演者が、先生と現役生徒諸君なので、採点は控えることにする。

【まとめ】北野高校の音楽関係諸団体の現状は、まさに開校以来の最盛期にある。私たちの時代から見れば夢のようだ。今回の創立130周年記念音楽会は、規模こそ10年前の創立120周年記念音楽会の『第九交響曲』に及ばなかったとはいえ「質的」には遥かに上を行く充実したものであった。



|                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「ハイドン 作曲<br>「オラトリオ『天地創造』より終曲」<br>独唱ソプラノ：坂上祥子(3-9)<br>アルト：服部友紀(3-6)<br>テノール：花田研太(3-5)<br>バス：山田 元(3-5) |
| 「ハイドン 作曲<br>「青春の輝き」<br>指揮：佐々木信明先生<br>伴奏：オーケストラ部2年生<br>ピアノ：作山哲平(1-4)                                  |



【総括】2003年4月新築成った六稜会館に、事務局が校舎の一室から入居して仮オープンをいたしまして、はや10ヶ月が経ちましたのでこの機会に取りまとめてご報告いたします。一言で言えば、われわれの期待以上に同窓生の皆様にご利用いただいていると言えます。



## 六稜会館運営委員会報告

六稜会館運営委員会  
岡田一彦(65期)

正式オープンした11月1日からは在校生諸君にもホームルーム等の会合に利用して貰えるようになり喜ばしいことです。

【六稜トークリレー】運営委員会の自主企画の第1号として2003年9月から毎月第一金曜日夜に始めました。これは会員の中から講師をお願いして、次々にリレーして行くとの趣向です。各回の概要は特集レポートを後載しておりますので、そちらをご覧ください。出席者は30～50名で委員会の当面の目標「100名」にはまだまだの状況ですが、参加者にはおおむね好評をいただいております。各委員の励みになっています。

※ただし12月は別に会費1000円を集めて懇親会をいたしましたのに、準備した食べ物の質、量ともに足りなくて御不満を買いました。すべて委員長私の失敗です（ごめんなさい）。

出席された皆様のお声を勘案し委員会で検討した結果、2004年は開催を毎月第一（または第二）土曜日、午後2時からに移し、さらに多くの皆様に集まっていただけるように配慮しました。内容も引き続き面白く、楽しく、文化レベルの高いものにしようと工夫している心算ですが、本当のところは一步一步手探りで進めているのが実情です。皆様のご協力とご参加をお願いします。

なお、今後のスケジュール予告や開催後の概要報告は速報版を六稜WEBでご覧いただけますので（<http://rikuryo.or.jp/talkrelay/>）アクセスして下さい。ご多忙のところ講師を引き受けて下さった皆様にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

【会館利用状況】右表は仮オープン後2004年1月20日迄の集計です。表からもお分かりの通り9ヶ月間で約100回3,000人を超えるご利用がありました。目的別に見ると「各年度の同期会総会や幹事会」がトップで32回、次いで「運動部や文化系クラブのOB・OG会」、以下「絵画などの文化教室」「見学」と続いています。

と続いています。囲碁の会も始まりました。在校生はホームルームや映画鑑賞会、コーラスの練習などに使い始め、いっぽう先生方も会議、研修会等に利用しておられます。学校関係者の利用は回数では同期会に次いで第2位です。

六稜会館は正門の真横にあ

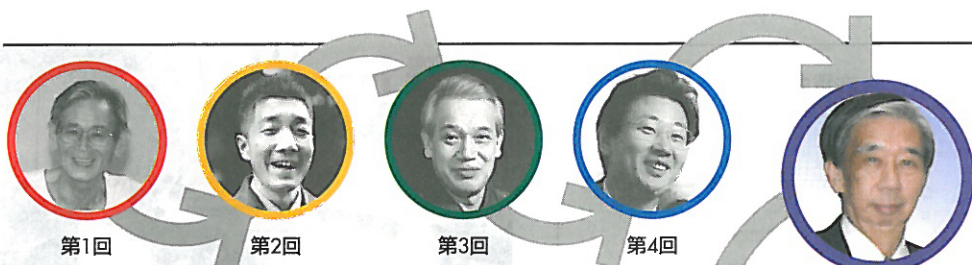
り、校舎敷地内でも、目立つ建物ですから、使用方法などにある程度の制約もありますが、同窓会としては所期の目的通り同窓生相互の親睦交流を図り、教養を深め、ひいては六稜文化の発信拠点としてこの会館を活用して行きたいと思います。併せて現役在校生諸君、教職員の皆様方、PTAの皆様方、更には地域の皆様方にも輪を広げていきたいと願っています。この9ヶ月あまりの実績を振り返って見ると、その方向に芽生えが育ち始めたように思われます。同窓生の皆様、老いも若きもそれぞれの楽しみ方が六稜会館にあるようです。皆様方のご利用を大いに期待しています。

【六稜史料・資料の収集保管】六稜会館の責務の一つに「130年の伝統、歴史を示す古文書や様々の遺品資料の類を収集し、整理・保管し、展示する事」があります。会員の皆様からはご著書の寄贈を続々と戴いておりますが、明治・大正・昭和3代にわたる資料・史料などもご提供戴きたいと思います。私蔵されている数々の資料・史料あるいはご遺品などありましたら事務局宛ご連絡戴きたいと思います。

【謝辞】同窓会事務局のスタッフには、裏方として大変なご協力を戴いております。また更に運営委員でなくてもトークリレー講師と同期の皆様にも、その都度ご協力をいただいております。ここにご紹介、委員会からの感謝の言葉といたします。

| 六稜会館<br>利用度 | 【内訳】 |    |          |       |              |        |             | 利用<br>人数 |
|-------------|------|----|----------|-------|--------------|--------|-------------|----------|
|             | 年    | 月  | 利用<br>回数 | クラブOB | 同期・同窓会<br>見学 | トークリレー | 文化教室<br>勉強会 | 学校利用     |
| 2003        | 5    | 8  | 3        | 5     |              |        |             | 127      |
| 6           | 9    | 1  | 5        | 2     |              |        |             | 181      |
| 7           | 5    | 1  | 3        |       |              |        |             | 157      |
| 8           | 5    | 1  | 4        |       |              |        |             | 128      |
| 9           | 11   | 1  | 4        | 1     | 2            | 3      |             | 206      |
| 10          | 13   | 2  | 6        | 1     | 3            | 1      |             | 373      |
| 11          | 25   | 3  | 8        | 3     | 1            | 2      | 8           | 1,498    |
| 12          | 14   | 2  | 1        | 2     | 1            | 2      | 1           | 307      |
| 2004        | 1    | 14 | 1        | 1     | 4            | 2      | 6           | 316      |
| 計           | 104  | 14 | 32       | 13    | 4            | 13     | 3           | 3,293    |





# 六稜トリクレー2004 上半期ラインナップ

各期持ち回り制のレクチャー・シリーズ…北野が誇る逸材の六稜人が目白押しです。一般公開型のイベントですので、友人ご家族お誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。なお、本年より土曜のお昼開催に変更になりましたので、お間違えなきようよろしくお願い申し上げます。

日時：原則として毎月第1土曜日

13:30開場、14:00開演（約2時間）

会場：六稜ホール（3F） ※六稜サロン（1F）も同時使用可

会費：1 コイン＝500円または4R（資料代）

飲食：茶菓を準備しています（チケット制：8R＝¥1,000）

連絡：詳細情報につきましては、逐次「六稜WEB」に掲示します。

お見逃しなく。→ <http://rikuryo.or.jp/talkrelay/>

●好評の主催事業に新企画!!

## 「六稜カルチャー講座」4月開講。

毎月第2・第4金曜13:30～◎会費 4R

六稜会館では、ご好評いただいております「六稜トリクレー」シリーズのほかに、あなたの乾いた知的好奇心を満たす主催事業をこれからもお届けして参ります。奮ってご参加ください。

◎第2金曜

山崎 馨先生  
(やまざき・かをる)



「万葉集に親しむ会」

【講師紹介】

昭和26～38年、北野高校教諭(国語科)  
神戸親和女子大学 学長を歴任。現在は  
神戸大学 名誉教授。飛鳥古京を守る会  
会長。著書に解説集『秋艸道人の歌』  
(和泉書院/1997年)、随筆解説集『會津  
ハ一の旅の歌』(和泉書院/2003年)ほか  
多数。

◎第4金曜

佐野哲郎先生(61期)  
(さの・てつろう)



「ケルトの神話を語ろう」  
— 日本・ギリシアと比べながら —

【講師紹介】

昭和28～34年、北野高校教諭(英語科)  
神戸親和女子大学 学長を歴任。現在は  
京都大学 名誉教授。著書に『W.B.イ  
イツ』(山口書店/1981年)、『豊稜の風  
土—現代アイルランド文学の群像』(山  
口書店/1994年)ほか、訳書も多数。

to be continued.

●第11回 [8月7日]

※講師の推薦、その他お問い合わせは  
六稜会館運営委員会まで。

→ [kaikan@rikuryo.or.jp](mailto:kaikan@rikuryo.or.jp)

●第10回 [7月3日]

奥 真也さん@93期  
(株)レーグル/埼玉医大講師)

医者を選ぶ 医療を選ぶ 医療を創る(仮題)



●第5回 [2月7日]

平野浩太郎さん@66期  
(神戸芸術工科大 教授/神戸大学名誉教授(電子工学))  
IT化時代に生きる



●第6回 [3月6日]

中井克樹さん@92期  
(琵琶湖博物館 主任学芸員)

いま問われる生き物とのつきあい方  
「いいとこどり」はあきまへん!



●第7回 [4月10日]

林 久男さん@59期  
(産業能率大学 経営開発本部講師/日本経営学会会員)  
手塚治虫と昆虫



●第8回 [5月8日]

阿部源三郎さん@50期  
(大阪市東医師会 名誉会長)

人生よもやま話  
戦艦陸奥から出た北野中学のバックル



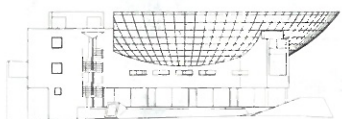
●第9回 [6月5日]

坂口和彦さん@90期  
敏子さん@98期  
(カレイドスコープ)

バーバーショップ・コーラス



六稜会館  
RIKURYO KAIKAN  
since 2003



## オープニング・セレモニー

2003.11.1

六稜会館運営委員会

岡田一彦(65期)

11月1日は幸いにも晴天でした。1階サロンには紅白の幕を貼り、3階ホールには六稜旗と祝130周年の掲示を、そして双方に丸本千鶴さん(65期)寄贈の生花をかざり開会を待ちました。

三々五々、同窓生が集まりはじめ、あちこちに歓談の輪が出来ました。やがて太田大阪府知事が体育館で挙行中の祝典挨拶を終え、お車で次のお仕事に向かわれる途次、会館にお立ち



寄り下さいました。新原事務局長の御案内で、館内をくまなく御覧いただきました(知事の御夫君は知人ぞ知る83期の斉藤牧也さんです。)

定刻11時、1階サロンには立錫の余地もないくらいの人々が集まり、新原さん司会のもと、募金者名板と、和太守卑良さん(74期)御寄贈の陶壁画『SEI-HO』の除幕式が行われました。

引きつづき3階ホールに移動して稲畑勝雄会長(56期)の挨拶と、大阪府への会館贈呈状の採納を行いました。次いで八尾隆大阪府学事課長さまからご祝辞をいただきました。中垣校長先生からご挨拶と同窓会への感謝状を頂戴いたしました。その後、会長から会館建設に特にご尽力をいただいた藤田 田さま(57期)、井川高雄さま(68期)、竹山由美さま(株式会社設計組織アモルフ社長)、得田芳宏さま(71期、株式会社松村組社長)に感謝状を贈呈しました。

最後に「昭和校舎から平成校舎へ」と題したDVD映像を上映し、めでたく閉会となりました。



## 六稜トークリレー Reports 2003



【第1回】中井正明さん(64期)

### 「大阪辯よもやま噺」

Sep. 7, 2003

六稜会館ホールでの「第一回トークリレー」は、9月5日(金)18時半より中井正明さん(なにわことばのつどい代表世話人)を講師に招き、岡田さん(65期)のなごやかな司会で幕が開いた。

この日の参加者は同期生を初め30余人の六稜生で賑わい和気藹藹。最初は講師らしく「なにわことば」の由来・説明から始まった彼のトークも、半ばを過ぎるあたりからは、皆さまご存知のユーモアたっぷりの軽妙なしゃべり口に移行、「洒落ことば」のコーナーなどでは笑いの渦もあちこちに沸き会場の人気をさらっていたようだ。「質問コーナー」を最後にあっという間に予定時間をオーバー。「もっと聞きたい」「また聞きたい」の思いを抱きながらホールをあとにした人も多かったのではないだろうか。

中井氏は、船場奉公の経験がある今は亡き母上の「なにわことば」の環境のもとで子供時代を過ごしたことから「全身全霊なにわことば」。「おおさかことば辞典」などにも載っていないような古い時代の「なにわことば」も彼の知識には貯蔵されていて、彼の学究心と相まって学者顔負けの「なにわことば」の生き字引的存在だろう。

快適なホール、会館運営委staffの綿密な企画、そしてサンドウィッチ・飲み物付きの会、次回予告の映写サービスなどなど、まさに同窓会館の船出を祝うのにはふさわしいイベントだった。今後も益々楽しい企画で続けて行ってほしい。(河渊清子、64期)



※当日応援に駆けつけた64期のみなさん





【第2回】福井栄一さん(97期)

## 「上方学でよみとく陰陽道」

Oct.3,2003

六稜会館竣工、校舎大改築完了。そして130周年祝賀会を知らせる『六稜會報』が届いた。

バラバラとめくっていたら、九月から始まる文化活動、六稜トークリレーの記事が目に残った。各界で活躍している同窓生が、月一回、第一金曜日の六時から、新しい会館の三階ホールで講演をするという。

面白そうだなと思っていたら、奈木進(66期)さんから誘いの電話をもらった。実を言うと、竣工した六稜会館を見たい気持ちもあったのだ。10月3日、上方文化評論家、福井栄一(97期)さんの話を聞きに行くことにした。テーマは『陰陽師2』の劇場公開前夜に会わせて「上方学でよみとく陰陽道」となっている。

内部は想像以上に落ち着いた雰囲気だ。エレベーターで3階へ上がる。66期は奈木さん、女性の方、それから私の3人だった。30人程の人が集まり、茶髪頭の福井さんの講演が始まった。

|          |          |          |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 51<br>甲寅 | 41<br>甲辰 | 31<br>甲午 | 21<br>甲申 | 11<br>甲戌 | 1<br>甲子  | 60<br>千支 |
| 52<br>乙卯 | 42<br>乙巳 | 32<br>乙未 | 22<br>乙酉 | 12<br>乙亥 | 2<br>乙丑  |          |
| 53<br>丙辰 | 43<br>丙午 | 33<br>丙申 | 23<br>丙戌 | 13<br>丙子 | 3<br>丙寅  |          |
| 54<br>丁巳 | 44<br>丁未 | 34<br>丁酉 | 24<br>丁亥 | 14<br>丁丑 | 4<br>丁卯  |          |
| 55<br>戊午 | 45<br>戊申 | 35<br>戊戌 | 25<br>戊子 | 15<br>戊寅 | 5<br>戊辰  |          |
| 56<br>己未 | 46<br>己酉 | 36<br>己亥 | 26<br>己丑 | 16<br>己卯 | 6<br>己巳  |          |
| 57<br>庚申 | 47<br>庚戌 | 37<br>庚子 | 27<br>庚寅 | 17<br>庚辰 | 7<br>庚午  |          |
| 58<br>辛酉 | 48<br>辛亥 | 38<br>辛丑 | 28<br>辛卯 | 18<br>辛巳 | 8<br>辛未  |          |
| 59<br>壬戌 | 49<br>壬子 | 39<br>壬寅 | 29<br>壬辰 | 19<br>壬午 | 9<br>壬申  |          |
| 60<br>癸亥 | 50<br>癸丑 | 40<br>癸卯 | 30<br>癸巳 | 20<br>癸未 | 10<br>癸酉 |          |

陰陽道の基礎になっている陰陽五行から始まり、話は十干十二支さらに方位図へと広がっていく。そして入口でいただいた資料を使い、甲子園球場、壬申の乱、戊辰戦争、辛亥革命、「還暦」「鬼門」の言葉の意味や五行を星形に図化した魔除けの符などをわかりやすく解説された。

そして千年前、平安時代の陰陽天文博士、安倍晴明の話に移る。母親は信太の森に住んでいた葛葉という白狐だったという伝説が残り、今は和泉市の稲荷神社に祭られている。また晴明の神社は京都にあり、最近の陰陽道ブームで観光の名所になり、連日にぎわっているようだ。

陰陽師は明治維新まで官職に就いていた。今も宮中にその風習が残っている。例えば愛子さまが誕生されたとき、弓の弦を鳴らして聞かせた「鳴弦の儀」は邪気を払う陰陽道の術だという。最後にさらに視野は広がり、アジアの自然と深いつながりを持つ陰陽道思想などの話があって講演は終わった。

陰陽道というから『陰陽師1』から想像して、怪奇

的な話かと思っていた。ところが理論的な内容が主だったので意外だった。実を言うと、『道教の房中術』(筆名・土屋英明、文春新書)を書いたとき、私も陰陽五行について調べたことがある。陰陽道を道教と結びつけ、勝手な想像をしながら、福井さんの話を拝聴していた。

むずかしいことをやさしく話すのは大変だ。その点福井さんは話術が巧みで、みな熱心に聞き入っていた。福井さんの上方学は奥が深く、私は陰陽道を再認識させられた。(梶和田明、66-67期)



【第3回】安東伸元さん(65期)

## 「古典芸能を体験してみよう」 狂言ワークショップ

Nov.7,2003

素晴らしい出会いの場だった。残響の存分に効いた六稜会館ホールに響き渡る朗々とした声。今となっては先ず探し求めなくては決して辿り着けない十分に澄み切った日本語。あのホールの明るいトーンの花びらリングがその瞬間、スーッと能舞台となった。

演目一番はこれからの古典芸能を担う若手により演じられた狂言『盆山』。体一杯に使った軽妙で若々しい立ち回りにぐいぐい引き込まれホール空間は室町に。最初グッと居住まいを正しながらの観劇だったがいつしか相好が崩れ、思わず笑いが。なんととも自然に設えられた導入であった。

皆の肩の力が少し抜けたところで安東伸元先輩に御登壇願ってワークショップ、御講話に。現在日本の古典芸能、古典芸能の置かれた危機的環境についての憂慮、なめならざる状況への慨嘆一頻り。また氏がイランに赴かれた際、彼の地での若者が実にすんなりと日本の古典を何の抵抗障壁もなく受け入れ、氏の予想だになかった1000名を超えるイランの観客との小謡朗誦の掛け合いのワークショップが不成功であったこと、そしてその背景には彼らのコーラン朗誦の習慣があるのでは、と氏の御考察があった。氏がイランの若者の目の輝きに打たれた反面、在イランの日本大使の日本古典に対する悲しいまでの知識の欠如を語られていて彼の地で氏が味わった面白くも悲しい今の日本の姿に通じる逆説的状況に聴衆もただ肯くばかりであった。氏が体当たりで大学講師をしつつ現代日本の若者と精一杯『格闘』されているお話や「今はタカラヅカと劇団四季さえあればいい?」「一万円出して日本人が何でわざわざシェークスピアを観に行くか?」「古典芸能はネガティブ、後ろ向き?」の氏の言葉に込められた思いは図らずも氏の古典芸能を力強く敷衍普及活動がされている日常を思い知らされた。本当の





に詰め掛けた六稜人にその日本人の範足り得て欲しいとの氏のメッセージを感じ取ることができた。

お話の後、ワークショップ。実際、狂言小謡『雪山』を氏の朗読に導かれつつ直口伝、皆で声をあげた。何と氏の面白い実験語である『アメージング・グレース』と小謡『雪山』とのクロスオーバーセッション!! (その場に居た人にしか体験できません!) 共に切なくも愛おしい人を想う愛の歌だけに実に自然にシンクロしていった。これには一同吃驚。そしてこれら日本古典に対するミニ知識、ミニ体験を積んだ後にいよいよ狂言『萩大名』の鑑賞に。氏の腹の底からの澄み渡った幅のある高い響きが、より一層中世日本語を恰も朗々とした一曲の楽としていた。狂言独特の装束、姿勢、所作、身のこなし、足捌き、目線、顔の造り、主従の掛け合いがホールに現出した室町空間に柔らかに溶け込んでいった。

この狂言という古典にはご存知のように登場人物を措いては取り立てて今流行の大仕掛けの大道具の類というものが全く排除されている。実際このホールのフローリングの床にも50センチほどの柱を模した木柱が方形に置かれた他は竹の渡しが数本設えてあるだけである。後は観る者の大いなる日本的な感性に頼りつつ創り上げていく一種双方向的な芸術である。それだけにそれだから尚更私達は日本というものをしっかり積み上げていかなくてはならないのではないだろうか。ともすれば欧米に偏向するきらいのある中等語学教育も、本当の意味での「ゆとり」を

日本人、日本らしさをもった日本本来の歌の唄える日本人がもういなくなっていること、それだから一層、頑固と言われようともこのホール

もって日本の古典にもじっくりと対峙できれば…。そのように感じた第3回六稜トークリレーであった。

私は北野時代から古典というものにずっと変わらぬ興味を持ち続け、この一新された六稜会館で古典に触れられる絶好の機会に旨く巡り会うことができた。私の今の職業とは全く関係が無いものの北野の生み出した大先輩、多士済済にこのような形で触れ合えることが出来るのは正に六稜の力だと感じる。もっともっと多くの六稜の仲間にも味わって貰いたい想いである。

(日高敦洋、92期)



## 【第4回】岩田松雄さん(89期) 「岩田松雄のスキルアップ人生」

Dec.5,2003

「こんなチャンスはなかなか無いな」と思いながら、私はトークリレーに一人で行く事を少しだけ不安に思っていた。しかし、会館に入ってみると初めて会う人ばかりなのに何故かホッとした。大先輩ばかりなのに気さくに声を掛けてくださった。

まもなく岩田氏の講演が始まった。華々しい経歴をもつエリートという先入観はすぐに消えた。北野ではあまり成績が芳しくなかったというのだ。最初に入社した日産自動車では、氏の人柄を良く理解し後押しをしてくれた人たちが沢山いた事等を話された。30才を少し過ぎた時期に社内留学をしたのが、氏の人生のターニングポイントになる。帰国後は海外調達・財務で為替に携わり会社に莫大な利益をもたらしたという。ここまでで、予定進行の時間を大幅に過ぎていた。講演は一旦休止され食事となった皆さんはお寿司をおいしいように召し上がり各テーブルでワイワイと盛り上がっていた。

後半の話が始まった。3社目の転職先としてブリクラで有名なアトラスに入社され、副社長から社長へ。この数年に経験された事が皆さんの大きな笑いを誘った。しかし氏が一番悩み苦しめたのもこのアトラス時代

だった。その後アトラスはタカラの傘下に入り、岩田氏は今年の6月からタカラの常務をされている。

講演が終わり名刺交換会となった。私は岩田氏に名刺を交換していただき、その際に「頑張ってください」と声をかけて戴いた。うれしかったと同時に何か気恥ずかしかった。一期一会の出会い講演だったと思う。

心から岩田氏にお礼を言いたい。ありがとうございました。(井根あゆ美、103期)



### 「六稜通貨をご利用ください!!」

現在、六稜会館におきまして独自の「六稜通貨」を発行しております。単位は「R(リクリョー)」(=そのまんま!)。単に「アール」と発音する人もいます。

日本円とのレートは1R(青)=125円見当です。六稜会館内でのみ使用が可能で、催し物の度に入口受付で8R綴り(=1000円)単位でご購入いただけます。なお、日本円への返金はできませんが、使用期限はありませんので、未使用分は次回のご来館の折りにご使用ください。

←点線で切り取ってご利用ください。六稜会館内でのみ使用可能です。

六稜会館チケット  
Kaiho#42  
¥2,000



●支部活動

# 東京六稜会だより

<http://rikuryo.or.jp/tokyo/>

東京六稜会長  
大山利雄(56期)

東京六稜会の皆様、新しい年を迎え新年のご挨拶を申し上げます。

昨年には、母校創立130周年の記念式典・行事を盛大に行うことが出来ました。これに合わせての新校舎の落成、また同窓会館の完成。同窓会館の建設に当っては、多額の寄付を皆様よりご支援賜わり誠に有難うございました。

あらゆる意味の情報発信基地の同窓会館が完成したことによって、同窓会活動の在り方は、従前とは随分変わったものになってゆくであろうと思われます。それに則して、同窓会の新しい体制がとられてゆくことになりましょうが、東京六稜会としても、新しい同窓会活動を機能させていきたいと考えますので、引続き皆様のご支援をお願いする次第です。

昨年1月より始めました東京六稜倶楽部の活動は下表の通りであります。延べで年間788人のご参加を得ました。

年末に委員による検討を行いました。本年も引き続き昨年と同じスタイルで運営することを決めました。これまで通り毎月第3水曜日の午前

11時

30分

開会。

講話約1

時間。の

ち食事を  
とって適宜

散会。午後

2時には終了

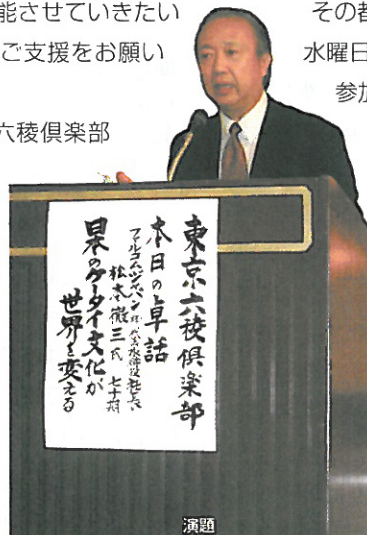
という枠組み

のもと、会費2,000円で場所は銀座ライオン7丁目店6階ホールと昨年と同じです。

その都度ご案内を致しませんが、毎月第3水曜日には必ず開催しておりますから、ご参加頂き、懇親を深めて下さい。

6月3日には、第47回東京六稜会総会が開かれます。現在、当番期85期の方々によって計画が進められておりますが、これは4月頃に、皆様のお手許にご案内が参りますので、多数でご参加下されば幸甚です。

以上ですが、本年もどうぞよろしくお願い致します。



| 月/日   | 講師(期)                      | 演題                    | 出席者  |
|-------|----------------------------|-----------------------|------|
| 1/15  | 順天堂大教授 奥村 康(73)            | 不老と長寿                 | 110名 |
| 2/19  | 順天堂大教授 奥村 康(73)            | 癌と免疫                  | 82名  |
| 3/19  | 俳優 牟田悌三                    | 私の人生                  | 64名  |
| 4/16  | 東大名誉教授 渥美和彦(59)            | 21世紀の医療/総合医療          | 64名  |
| 5/21  | 前田昌弘(70) + UFI総研 嶋中雄二      | どうなる日本経済              | 57名  |
| 6/18  | プリファード代表(取) 箕島紘一(75)       | 絵画の岩波文庫               | 53名  |
| 7/16  | りそな総研前会長 国定浩一(71)          | 阪神ファンの経済効果            | 82名  |
| 8/20  | ファルコムジャパン社長 松本徹三(70)       | 日本の携帯文化が世界を変える        | 65名  |
| 9/17  | (財)IIS・イーシー代表(取) 坂本幸弘(70)  | 頭のいい奴、悪い奴             | 74名  |
| 10/15 | (財)日本情報処理開発協会常務理事 生田章一(83) | 有田焼(古伊万里)とヨーロッパ文明の出会い | 43名  |
| 11/19 | 毎日新聞社論説委員 松田喬和             | 選挙終って今後の政治展望          | 48名  |
| 12/17 | 陶芸家・東北芸術工科大教授 和太守卑良(74)    | 和太守卑良 陶芸の世界           | 46名  |
| 1/21  | 中西 実(41) + 広江 勲(53)        | 年頭の辞 + ビューティフル・エイジング  | 58名  |

●東京六稜倶楽部 年間記録



# PARTY REPORTS

(開催日順に掲載)

※紙数に限りがありますので、少なからず編集部にて要約させて載せておりますことを予めご了承ください。なお、原文は六稜WEB（ホームページ）の「六稜News」欄に全文掲載されておりますので、御参考まで。

<http://rikuryo.or.jp/news/>



## 大阪市大医学部六稜会

7月5日●夕刻、心斎橋にて27名の参加。最初に大谷遷会長（64期）と内田俊策前会長（56期）の御挨拶があり母校の最新情報なども御紹介戴きました。続いて堀口俊一名誉教授（56期）の御発声で乾杯。昨年御就任された放射線医学の井上佑一教授（74期）と視覚病態学の白木邦彦教授（83期）からも市大の現状紹介や学生への暖かいお言葉を頂戴しました。今年の新入会者は内田一嘉さんと戸口田美奈子さんで、お二人からは入学後の感想などを聞かせて頂きました。その後は先輩から後輩へ送る言葉、勤務先病院での取り組み、学生からの活動報告などがありました。

今年の卒業生から卒業研修制度が変わりマッチングシステムなど耳慣れない言葉も登場していますし、学生にとって色々な立場の先生方のお話を聞くことは進路決定での参考になります。またこの会は先生方にとっても、お二人の現役教授や卒前・卒後教育で影の主役を勤めておられる総合診療科の津村圭助教授（82期）との連携がはかれるなど大きなメリットがあると思われます。今年御臨席の先生はもちろん、残念ながら御出席頂けなかった先生方も是非来年度、御参加下さいますようお願い申し上げます。（萩原 聡、91期）

## なにわことばのつどい第21回総会

7月28日●今年も7・2・8＝ナニハの日々に第21回総会が開催されました。この会の代表世話人を16年間続けておられる中井正明さん（64期）は、六稜WEBでも、六稜大阪学講座で「なにわことば三昧」を連載。音声付きで大阪辯の微妙なアクセントやニュアンスを詳しく納得いくように伝えておられます。

今回のテーマは「外来語大阪辯の番付決定大会」。日本語化した外来語の中から大阪辯としてよく用いられるものを相撲の番付表に倣ってランキングしようという試みです。

近頃は街中や新聞雑誌にも横文字やカタカナ文字だらけ、日常会話にパソコン用語が多用され「日本語はこれからどうなるのか」と心配する向きもあります。国立国語研究所外来語委員会は次のような言い換え例を提案しています。「インフォームド・コンセント＝納得診療」「ポジティブ＝積極的」。この会の顧問・友成光吉氏によれば日本人、殊に商売人の多い大阪では昔から外国語や横文字を取り込んで自分のもの（大阪辯）にしてしまう風土のよう。

さて番付結果は下表の通り。

|    | 東              | 西                     |
|----|----------------|-----------------------|
| 横綱 | バッテラ(ポルトガル)    | ベケ(マライ・中)             |
| 大関 | メリケン粉(英+日)     | ウンともスンとも言わない(ポルトガル+日) |
| 関脇 | キビシヨ(中)        | アイスクリン(英)             |
| 小結 | レイコー           | タント・ターント(伊)           |
| 前頭 | ヒロウス(ポルトガル)    | ラムネ(英)                |
|    | ハンドン(日+和蘭)     | セコ・セコハン(英)            |
|    | アチャラ漬(ポルトガル+日) | ナンキン(中)               |
|    |                | …等々                   |



閉会の言葉と「正調 大阪手打ち」の説明があり（東京では「手メめ」と言って物事の終りに手を мер が、大阪では物事の始まりに手を打つのだとか）。参加者全員でこの会の今後の発展を願って手を打ち鳴らしました。（岩本裕子、64期）

## 戦争体験芝居「殺生なこだわり」

8月8日●戦後58年目の8月8日。今年も非核平和都市20周年記念のイベントとして関西芸術座有志の自主公演が吹田市文化会館中ホールで19時より開演された。脚本は元劇団員でもあった劇作家・土井陽子さん（64期）が戦争体験記『孫たちへの証言』をもとに書き下ろしたという力作である。

舞台は大阪。したたかにそして少々見栄を張りながら、元気にイマを生きる80歳前後の女性を中心に彼女らに絡む同世代の3人の男。戦争によって歪んでしまった彼らの人間関係が織り成す悲喜劇である。出征して行く恋人が最後の別れに贈った



「ボレロ」の曲、そんなロマンティズムを掻き消すかのような「海行かば」など悲惨な戦争犠牲のあれこれが交錯する。切なく重苦しくなりがちなのにこの種のテーマを、若者2人を登場させたりユーモアに富む台詞を効かせたりで、劇作家土井陽子は明るく、そして人間愛溢れた物語に仕上げている。

当日は台風接近の悪天候にも関わらず、同期の私設応援団『紅艷隊』のほか、この芝居を観に来た人で会場はほぼ満席。舞台上演じられた「戦時中の青春時代」を戦争を知らない世代の目には果たしてどう映ただろうか？（河瀬清子、64期）

### 能と現代劇のコラボレーション 「大原御幸異聞」

8月29日(夜の部)+30日(昼夜2部) ●梅田HEP-FIVEホールで上演された。五年前に神戸で



初演、今回が二度目の公演である。脚本・演出・監修は土井陽子さん(64期)。土井さんの脚本は“大原御幸”という能狂言と現代劇を同じ空間で異次元にからめ、初めて能と出会った若い人々にも楽しめるように書かれている。名作からの発想を展開した彼女の才気は素晴らしい。

『愛という魂の揺らぎは、人生のみずみずしいきらめきだ。樵の存在は、終幕で独りたたずむ建礼門院の美しい面に、過酷に人生を生きた生身の女の哀れをにじませるようだ。女としての建礼門院をしっとり炙り出したつもりである。』（土井さんの言葉より）（河瀬清子、64期）

### 酒井優行油彩画展

9月4～10日 ●京阪百貨店守口アートサロンにて。酒井氏は81期。一大決心をし25年間の公務員生活に自ら終止符を打ち、洋画家へ転身した…というユニークな経歴の持ち主である。

そもそも氏と絵画の接点は学園紛争時代。1969年に京大工学部に入學するも、約半年間の自宅待機という異常な学園生活を送るうちに独学で油彩画を学び、高槻市美術展市長賞や大阪日曜画家展知事賞などを受賞。大学院終了後も大阪府庁に勤務する傍ら二科展、関西独立展、関西国展などに入選を果たしたが公職の激務にかまけて、いつしか筆を忘れていた。

数年前、地元画家のアトリエに通い、若き頃の情熱が再燃。2001年3月に一念発起で府庁を早期退職した後、すぐにスペイン旅行に旅立つ。このとき取材したスペインの田舎の風景は、しばしば彼の作品のモチーフになっているようだ。その風景画には、どこか心理的で謎めいた気配が漂っている。また、静物画も得意とするようで…写実的でありながら夢想的な趣も同時に内在する作風は、画家の陶酔感やナイーブな側面を伝えるのに十分な雰囲気を出している。とりわけ「花」については油彩画というよりもむしろ日本画的な要素

が随所に見うけられた。

3年前、地元高槻の西武美術画廊を皮切りに銀座の画廊、新宿三越等で次々個展を開催。またホームページを活用したバーチャル・ギャラリー\*も、そのクールなインタビューは特筆に値する。今後の活躍に期待したい作家の一人である。（谷 卓司、98期）

※<http://art12.infoseek.livedoor.com/>

### 六稜会館映画鑑賞会「阿弥陀堂だより」

10月1日 ●六稜会館の映画鑑賞会に行ってきました。3階ホールに机と椅子をゆったりと配置して、お茶のサービス付きというサロンの雰囲気の中で「阿弥陀堂だより」をゆっくりと鑑賞しました。映像も音響も良い鑑賞会でした。

映画は妻の療養をかねて故郷の長野県の山里に移り住んだ中年の夫婦が、村人との生活の中で、徐々に生きる活力を回復していく話です。ほのぼのとした人間模様の描写に心と山、四季の移り変わりを描写した映像が美しいです。

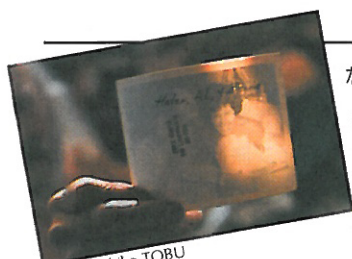
その日の参加者は40人足らず。80名位まではゆっくりと、後ろの階段席に入れば100名以上は悠々と鑑賞できそうです。六稜の貨幣というのが出来ていて1000円で8R（ルピーと呼ぶのかな?）。この日の映画は2Rでした。（中田 洋、69期）

### 藤部明子写真展～The Hotel Upstairs

10月14～11月1日 ●ツアイト・フォト・サロンにて。同期の藤部明子さんの写真展に行ってきました。生憎、ご本人に会うことはできませんでした。が、ゆっくり鑑賞し、写真集も買ってきました。

はじめ『The Hotel Upstairs』って何じゃい





2004 © Akiko TOBU

な?とっていました。それはレジデンスホテルという、一般旅行者向けのものではなく、いわゆる低所得者・長期滞在者向けの格安アパートのことでした。サンフランシスコのノースビーチ付近のものだそうです。

藤部さんの写真はそこに住む人々やその部屋の日常を独特の感性でクローズアップしています。彼女がどのような感性でとらえ、どのようなメッセージを送ろうとしているのか、私の言葉では表現できませんが、1枚1枚、非常に強い印象を残す作品でした。(佐野憲一、98期)

## シモーヌ近藤 オリジナルビスクドール展

10月22～27日●近藤喜治さん(55期)の第6回個展が池田で。ビスクドールとは頭部が磁器で作られた人形のこと。その魅力や保存性の高さから大人のための芸術品として珍重されている。



世界中の人形作家と交流のある近藤氏(六稜WEBでは「近藤仙人」の愛称で親しまれている)は既に358種類の顔型を作られているが、500種類を目標に今尚製作に励んでおられる。会場にぎっしり並べられた和・洋人形たちの顔はどれひとつ同じ表情のものは無く、見る人の心を安らげる。人形の衣装デザイン・縫製は奥様の担当。素材を各国から買い集められているようで、色合い・材質とも日本では見られないような感覚のもの。

「マタイ伝25章40節」のみ信じている…と言われる近藤仙人からは「今が最高に幸せ」だと信じてることで幸せがやってくるものだ、との人生訓を賜った。(河津清子、64期)

※近藤さんのホームページ  
<http://village.infoweb.ne.jp/~fwins5619/>

## 劇団ASAミュージカル第19回公演 「額田女王」に奥田和夫さん出演

10月25日●芦屋ルナホールで。第1部は「大正ロマン歌絵巻」。松井須磨子・島村抱月の恋物語をからませて、中山晋平、山田耕作的の懐かしい曲が次々と劇中歌として歌われた。

奥田氏出演の第2部「<sup>ふかたのおおきみ</sup>額田女王」では、歌人額田女王は神の心を詠う巫女として書かれ(作:平尾洋)その波乱万丈の生涯が繰り広げられて行く。

58期ほか多くの六稜生の見守る中、いよいよ役者「奥田和夫」の登場!

<sup>なかのおおえのおおし</sup>中大兄皇子(後の天智天皇)に仕える藤原鎌足役である。声もよく通るし、脇役には勿体ないくらい。台詞まわし・所作は何となく歌舞伎風。品格もあり何時もながらの余裕ある演技も堂に入ったもの。カーテンコールでも、主役をしのいでの「鎌足」への拍手といい、抱えきれないほどの花束といいもはや「人気役者」としての証なのかも知れない。(河津清子、64期)



## 北岡 樹リサیتال in 大阪ブルーノート

10月26日●北岡樹さん(80期・本名=北方志津子)の大阪ブルーノートでのリサیتالに出かけた。いつも歌っているアートクラブ「ベコー」の常連、大阪プロバスクラブのメンバー、六稜80期/58期の友人、多くの知り合いに出会った。皆、彼女のファンなのである。

夜のしじまに「アマポーラ(Amapola)」から、彼女の歌声は始まった。長年聴いているが、この1～2年円熟の域に達してきたように思う。人間国宝、鶴賀若狭掾の直弟子となり新内の勉強をしたことが、彼女の艶やかな声に更なる深みを持たせたのかも知れない。今夜のリサیتالも、いつものように軽妙な大人のトークを混じえながら、ブルーノートに相応しい曲が次々と出てきた。もともとアルトの音域が綺麗な彼女だが、殊にシャンソンは人生経験を積んだ熟女の表現力が必要とされる。これから精進して、聴く人の心に語りかけ、歌い上げて欲しい。

北岡さんとわれわれ58期は、8年前、記念文集を発行した卒業50周年総会のゲストとして、シャンソンを聴いた時以来、応援している間柄である。彼女はこのリサیتالを機に2枚目のCD「セビ



ア色の風」を出した。1枚目のCDはファーストリ  
サイタルの収録であった。共に秋の夜長を独りで  
過ごす時、ワインを傾けながら思い出に浸り聴く  
名曲集です。(奥田和夫、58期)

●お問い合わせ…MK(樹)企画

Tel&Fax: 072-297-4794/Email: miki221@sakai.zaq.ne.jp



### 東京国際女性映画祭に槇坪監督の最新作

11月5日●映画『老親』から3年。女性映画監督・  
槇坪夢鶴子さん(71期)の最新作『母のいる場所』  
がこの程完成し東京国際女性映画祭に出品された。  
監督と馬淵晴子の舞台挨拶もあり、会場の250席  
は満席で立見も一杯。司会者によれば同劇場の新  
記録だとか。原作は久田恵さんの実体験を元に書  
いた『母のいる場所～シルバーヴィラ向山【こう  
やま】物語』。病気の母(馬淵晴子)を父(小林桂  
樹)と娘(紺野美沙子)が看病する中で家族の絆  
が強くなっていく物語です。酒も恋愛も自由、入  
居者の思いを最大限尊重しようとするユニークな  
シルバーヴィラ向山を主な舞台として撮影されま  
した。各地で上映企画をされる方々が映画を見に  
来られており、満席で客席の反応も良かったこと  
から、劇場での上映予定は近い将来決まってい  
くと期待しています。槇坪監督への皆さまの応援を  
よろしくお願いします。(堤 興亜、71期)

### 73期ミニ同期会

11月15日●同窓会館でミニ同窓会を開きました。  
ミニとは言え、東京から5人、名古屋地区から2人  
を含めて71人の出席となりました。

木村市三君の総合司会で開会宣言時に、ついー



週間前に亡くなった岡田利治君に対して黙祷を捧  
げた時は身につまされる思いでした。梶本興亜・京  
都大学教授の開会挨拶の後は談笑に移りました。  
しばらく歓談の後、柴田英二さんのブラジル体験  
のプレゼンが始まりました。

同窓会館の使い勝手を初利用者の立場から述べ  
ておきましょう。まず、会館使用料は3000円、わ  
れわれは3階ホールを使いましたが100～120名は  
ゆったりいけます。機器類はマイク、VTR、プロ  
ジェクタ等若干の使用料で便利に使えます。食事  
等はサントリーの子会社「ダイナック」がおいし  
くて温かいバイキングを段取りしてくれました。  
費用は料理4000円×60、フリードリンク1050  
円×60で一人当たり4500円で十二分に堪能できま  
した。われわれ73期は同窓会館をフル活用してお互  
い楽しもうと誓い合いました。(久保禎男)

### 六稜58期「喜寿の祝い」同期会

11月15日●晩秋の好天に恵まれ、今年達者で喜寿  
を迎えた58期の旧友30名が、竣工したユニークな  
設計の六稜会館に元気な顔で集まりました。早速、  
1Fの六稜サロンでは和太守卑良(74期)さんの陶板  
作品『聖方』と募金者銘板を、B1Fではギャラリ  
ーと史料書庫を見学。3Fの六稜ホールでは壽榮松  
さん(74期)の130周年記念映像ビデオを鑑賞。母校  
創立130周年記念として後輩に立派な遺産を残せ  
たことは、本当に感慨ひとしおです。

ついで、平成大改築が完成した新校舎を見学。  
思い出深い旧学び舎は跡形もなく、素晴らしく立  
派な建造物に感心する反面、時の流れと、何とも  
言えぬ懐旧の一抹の寂しさに耽りました。さらに、  
メモリアル・ウォール(=昭和20年の大阪大空襲  
で米軍機の機銃掃射により昭和校舎の本館西壁に  
残された28ヶ所の生々しい弾痕跡)と「殉難乃碑」  
(同時期に、焼夷弾により被爆死した2人の62期生  
を偲んで昭和61年に同期生が建立)を目の当たり

に見て、58期の村川一正君が  
石産精工三国工場へ勤労働員  
中(昭和20年6月7日)、悲運  
にも同様に焼夷弾の直撃を受  
け被爆死した事が思い起こさ  
れ、無念にも我国の礎となっ  
て散った同君の冥福を、改め





て祈りました。

その後、中津の東洋ホテルに総勢42人が集まり、奥田和夫君の手慣れた司会で開会、ついで濱田代表幹事の挨拶、物故者（107名）慰霊黙祷、会計報告、尼崎幹事の六稜同窓会報告、森田在京幹事の報告、次期代表幹事・幹事・監査役の選任の後、第2部は森島重勝氏（45期）の卓話でスタート。上田伊一郎君の著書『商人卯兵衛奮闘記』の出版報告。大塩平八郎の乱を町人の立場から捉えた大作です。上田君は大阪市北区天満の出身で、彼のご先祖の語り継がれた物語です。一冊1,365円(税込)。ご希望の方はご連絡ください。



また、清木尚芳君・山県保君が今秋の勲章で受賞されました。長年にわたる功績・ご苦勞に敬意を表するとともに元気で今尚現役で活躍されている事を心からお祝い申し上げます。次期代表幹事の上小沢道弘君の挨拶のあと、校歌斉唱し、奥田和夫君の閉会の辞で喜寿の同窓会は盛会裡に幕を閉じました。私達六稜58期生はお互いに良き友を持ち、趣味の輪を拡げ、自らの生き甲斐と健康管理に留意して、来年も元気に顔を合わせたいものと念願しております。（尼崎孝雄）

## 六稜66期同期会

11月16日●六稜会館で。関東・四国・九州など遠方からも多く来会、合計84名もの参加者があった。

卒業後49年目の再会もあり、初参加の方は十三に降り立った所からすっかり変わった学校周辺の街並みに驚き、当時通い慣れた通用門の位置には立派な正門ができ、右手に旧校舎の「北中」マークが歴史を物語り、極めて斬新な「六稜会館」の特



異な姿に接し、これは正しく刮目に値する建造物であることに驚いた。六稜サロン（会館1F）の募金者銘板を見て、お互い自分の名前を確認。

70年にわたる苦節の昭和史を刻んだ昭和校舎は既に無く、当時を偲ばせるものは僅かにプールと校庭に残された大木のみになってしまっていた。

会そのものは和やかにゆっくりと進行、広い会場では席を越え美酒の酌み交わしや、お喋りに花が咲き何十年振りかの再会を喜んだ。「教壇の下から××が発見されるという大事件があった」とか「水泳大会で同期のH君が長時間潜水泳法をやり、頭部打撲で脳震盪を起した」とか「2年先輩が自由形で最後まで犬掻きで泳ぎきり某先生が激怒した」とか…遥か彼方の思い出が甦り、もう話題はエンドレス。それにしても、自分たちの同窓会館ができたことは何よりの喜びであり、会館での行事等に参加できることの確認もできた。

当日、MLへの参加呼び掛けに11名の同意を得、メンバーは計40名となり、66期もメールでの交流や各種情報も得られるようになった。更なる参加を期待している。来年も元気に卒業50周年を寿ぎたいものである。（山田喜久子+奈木 進）

## 六稜85期卒業30周年記念同期会

11月22日●完成したばかりの同窓会館（同期の竹山聖氏が設計、新校舎も同氏の原案）で85期卒業30年目の同窓会。11名の恩師を迎え、参加者総勢150名以上。

第1部では西川先生と村井先生が挨拶。70歳を越えても現役時代と変わらない迫力に圧倒され、続いて母校の現役教員である岡田拓史と加藤悦子から北野高校の近況報告。スーパー・サイエンス・スクールに選ばれたこと、週休2日制で授業時間が減ったため学力の維持に苦勞していること等…2人の絶妙なやり取りで生き生きと説明。

次に竹山聖が自作パネルを用いて新校舎の説明。校内随所に出会いの場を設けるよう工夫した等の設計思想を聞き、その後の新校舎見学ツアーもあって新校舎に対する愛着が深まりました。

続いて、2004年度・六稜同窓会総会の取り組みについて。85期が幹事期を務めますので、新学年理事として田丸二郎、米倉彦之、谷藤慶一を選出



し、同期生一同にも協力を要請しました。後日多数の方から協力の申し出があり、幹事一同心強く感じた次第。最後に恩師を囲んでクラス毎に集合写真を撮り、ホテルプラザオーサカへ移動。

第2部では口村先生による乾杯の音頭の後、引き続き恩師の(稲葉、上原、川副、中野、野々村、福田、松浦、松田)各先生からご挨拶を頂きました。どの先生方も矍鑠と、あるいは飄々と近況をお話下さり、同期生一同たいへん嬉しく思うと共にこれからも元気なお姿で同期会にいらっしゃって欲しいと感じました。その後クラス毎に壇上に上がり、クラス幹事によるクラス紹介とスナップ撮影。第1部の整列写真と共に良い記念になるでしょう。最後に校歌斉唱で第2部をしめました。

第3部は19階「淀の間」に場所を移し、殆どの出席者が引き続いて参加、第2部に劣らぬ盛況ぶりでした。座席自由で気の合った者同士の歓談の輪が広がりました。もちろんテーブルをハシゴするグループも多く見られ、制限時間の21時までたっぷり楽しみました。(東久美子+広瀬康夫)

## 六稜76期同期会

11月29日●参加者  
約60名(数えたわけではない)。恩師、  
藤尾先生、福田先生。  
(小野祐路)



## 六稜ゴルフ/第10回ジュニア天高戦

11月30日●今回は79期の森元泉君が馳せ参じてくれ、80期の川崎博一君が善く健闘したものの、ポイントゲッター・わが六稜キャプテンの谷口行先輩(76期)が怪我のため欠場、常連の中村勉(78期)・賀来正博(78期)・高野隆(78期)・牛丸芽(95期)も都合が付かず、天王寺もポイントゲッターの塚本・平川・片岡の各氏を欠いての参戦にもかかわらず、また

もや「美酒」を天王寺に献上してしまったのでした。[於 東条ゴルフ倶楽部]

【組合せ】※カッコ内数字は卒業年度(昭和/平成)

### ●アウト

植田豊實(天39) 濱 成好(北41) 森元 泉(北42)  
西浦一明(天40) 奥田三郎(天40) 早川志保(北02) 山村委久子(北02)  
星加利樹(天39) 桑原 豊(天40) 苗村隆太(北40)

### ●イン

近森 茂(天39) 伊藤安生(天39) 石上英一(北43) 川崎博一(北43)  
石田勝之(天41) 鰐 勝彦(天41) 林田 隆(北41)  
木村直樹(天41) 橋本優也(天41) 久保公一(北41)

### 【スコア・BEST5】

|    | 北 野           | 天王寺           |
|----|---------------|---------------|
| 1位 | 川崎博一 42+44=86 | 鰐 勝彦 41+41=82 |
| 2位 | 久保公一 44+43=87 | 橋本優也 47+40=87 |
| 3位 | 森元 泉 44+49=93 | 石田勝之 45+45=90 |
| 4位 | 早川志保 46+50=96 | 奥田三郎 44+47=91 |
| 5位 | 林田 隆 49+49=98 | 木村直樹 48+49=97 |

【競技方法】各チームのハーフナツソウ(各ホールのごロス・トータルの勝ち負け、1名の場合はダブルスコアとする)で争います。前半・後半・18ホールズ、それぞれ勝ち点を1点とし、最高で1チーム3点を獲得出来ます。天王寺チーム、北野チームの総得点数で勝敗を決め、負けたチームはプレー終了後の飲み代を支払う。

試合終了後は、自己紹介・勝因敗因の弁など、何時もながら和気藹々な雰囲気の中での会食も進み、次回(第11回)大会を来年の5～6月とすることを決め、各チームそれぞれ必勝を誓い合い、終了したのでした。(濱 成好、78期)

## 船場大阪を語る会・第129回例会

### 「船場の医者・大阪の昔」

#### 阿部源三郎さん(50期)

12月13日●船場育ちのボンボン数ある中で、とびっきりの「やんちゃ坊主」を自称する阿



部源三郎さん(50期) 84歳。ご自身も道修町の薬屋の生まれで、幼少の頃より医薬の世界に馴染みの深かった阿部さんは、大坂の医学の系譜、その原点を懐徳堂に求めた。

また阿部さんは、洪庵の七男六女の家系図を紐解きながら、次男の<sup>これよし</sup>惟準と四女の八千代の子孫が、現在の緒方病院の家系であることを語った。会場には洪庵の曾孫(六男、収二郎の孫)にあたる緒方裁吉さん(37期) 97歳も見えており「一夜漬けのにわか勉強で、まことに恐縮」(本人談)しなが





らの講演となった。次に、昭和5年頃に東区にあった主な病院を列挙しながら、その成立と経緯について簡単に解説。東区で開業医を始めることが当時の名医のステータスであったことを回想された。また、大正15年の健康保険法発布に始まる「大阪府の医療制度」の歴史を掻い摘んで概説され、大阪市医師会の歩みを簡単に要約された。

休憩を挟んで講演第2部は御自身の回想録。元来、話し好きとお見受けする阿部さんの饒舌に拍車がかかった。大酒飲みは親譲りの遺伝のようで「もし自分が臨床医だったら、とっくの昔に肝臓をやられて死んでいただろう」という阿部さん。産業医として、幾多の従業員の生活習慣病を予防する立場から「健康の秘訣は『仕入と販売のバランス』』と言い切る。「過度の仕入を避け、不良在庫を抱えないこと。これはビジネスでもカロリーでもまったく同じ」…何とも分かりやすい表現だ。宴会のある日は昼食を控えめにする(ex.ケツネうどんだけにする)とか、毎日のほんの少しの節度が生活習慣病を防ぐ最大の知恵…そう社員に公言している手前「自らが模範を示さないわけにはいかないダロ」。照れ笑いしながら、阿部さんはご自身の長寿の秘訣を語ってくれた。(谷 卓司、98期)

## 73期有志による教育問題を考える

### “Project-K” 第一回セミナー

12月20日●73期の京大の梶本さんあたりが日本の教育の現状を憂い、定年後に仲間が集まってこれらに関して何か社会にお役立ちが出来ないかとい



う問題意識で2年前に始まったのが“Project-K”です。2ヶ月ごとに5～6人で集まって議論をすればするほど間口が広く、奥行きが深い大きな問題だということがうっすらとわかってきた段階です。

何か並行して行動に移さないと議論倒れになるので、教育問題に警鐘を鳴らしておられる京大の上野健壘教授に講演をお願いする運びとなりました。会場は六稜会館です。

【講演概要】(テーマ「ゆとり教育と学力低下問題」) 学生の学力低下の傾向は80年代後半から現れてきた。今では大学の授業について行けない学生が多数出ている。これらの原因は高校教育のみならず小学校以来の積み上げ不足の結果という気がする。ゆとり教育なるものは当初おちこぼれ対策であった。しかしその後は変質し、基礎学力の向上がおろそかにされて、間違ったアプローチによりファミコンの時間を提供するような馬鹿げた結果となっている。その結果、公立中学では英語・数学・国語がわずか週3時間止まりとなった。欧米では一部の人だけでは世の中は動かないとの認識の元、底辺教育こそが重視されている。日本では優生学上できる子は優遇して当然という極論も出る始末で、結果的に優秀な子は私学に流れざるを得ない状況となった。これらの集大成として、宇宙開発の失敗やJR東日本および各地の工場での相次ぐトラブルに繋がっているのではなかろうか。何か打開策があるかといえば、教育基本法にその原点のヒントがある。教育の機会均等や教育者の全体への奉仕が明記されているからである。また、本件こそ定義を明確にして議論をウヤムヤにしないことが肝要であろう。

【全体の評価と今後の活動】初めての試みでしたが20人の73期生に加えて一般人も数名参加がありました。何よりも北野高校から中垣校長、鎌田教頭を始め若い先生、学生さんも加わって戴き、総勢35人で質疑や意見交換に花が咲いて大成功でした。六稜会館3階ホールは木の雰囲気温かく、プレゼン設備も揃い、椅子、テーブルを機能的に配置できて茶菓も楽しめる絶好のセミナー会場でした。今後3ヶ月毎程度の頻度でこの場所を中心に活動をしていく予定です。(久保禎男)





### 美美庵X'masNight2003

12月25日●85期コンビが手掛けたダイニング「美美庵」でクリスマスイベント。7月のオープニング以降、大々的なイベントを行うのは初めて。吹き抜けの店内には5メートルの縦の木が装飾され、灯りも少し暗めでムーディな演出。音楽は自然に体が動くようなラウンジ・ミュージック。普段は別室のグランドピアノも今夜ばかりはお披露目された。

スペシャルゲストとしてMCにFM802の人気DJ、KIYOMIさん、ライブアーティストに中尾友香さんを迎え、パーティを盛り上げた。中尾さんは大阪のストリートを舞台にライブ活動を展開する新進気鋭の女声ヴォーカル。KIYOMIさんも注目のアーティストで、クリスマスソングに加え自身のオリジナルナンバーを熱唱した。また常連のシャンソニストゆうき芽衣さんも飛び入り参加、そのしっとりとした歌声で観客を魅了した。また山口智美さんによるネイルコーナーも開設され、聖夜にふさわしいネイルアートも体験できた。

4時間に渡る美美庵X'masNightの最後を締めくくったのは、ジョン・レノンの「ハッピークリスマス」。中尾さんのリードにあわせて来場者全員での合唱はとても心に残るものだった。美美庵のコンセプトは「大人が楽しめるサロン」そして「若き芸術家の活躍の場所」。その想いを余すところなく盛り込んだ今回のクリスマスイベントは、今後の更なる展開への確かな一歩になったといえるのではない。

(矢野圭子、110期)

### 六稜67期・卒業50周年同期会【予告】

六稜67期は2005年に北野高校卒業50周年を迎えます。そこで2005年春に同期会を開催致します。日時・会場などの詳細は追ってお知らせ致します。67期の皆さまは多数ご参加ください。

(67期世話人：神宅寿昭/日高 穂)

## 寄 贈 御 礼

【六稜文庫】2003年(受入順)

木船悌嗣さん(63期)→白水隆『日本産蝶類文献目録』(北隆館)★マルキ明子さん(97期)→自著『ラヴィ・アン・ローズ』(新風舎)★藤田田さん(57期)→自著『ユダヤの商法～世界経済を動かす』『頭の悪い奴は損をする～ユダヤ流・金戦の哲学』『ユダヤ流金持ちラッパの吹き方～なぜ俺だけが儲かるのか』『天下取りの商法～ゼロから1000億円へ』『実戦ユダヤの商法～超常識のマネー戦略』『ユダヤの商法』起業戦争の極意』『勝てば官軍』(KKベストセラーズ)★真砂博成さん(59期)→自著『五月の嵐(ドイツ電撃作戦とダンケルク)』(創元社)、同、文庫版(学習研究社)★岸本嘉名男さん(68期)→自著『釣り橋ゆらり』(編集工房ノア)★中井正明さん(64期)→自編『なにわいろはかるた全集』(なにわことばのつどい事務局)★瓜生知寿子さん(82期)→マリアン・バブソン『ハリウッド的殺人事件』、スティーブン・ドビンズ『奇妙な人生』、マーク・クーヴェリス『グロリア』、パトリシア・ハイスミス『ガラスの独房』、R.W.ウォーカー『女検死官 ジェシカ・コラン』『第六級暴力殺人』『ハワイ暗黒殺人(上)(下)』『ハートのクイーン(上)(下)』『洋上の殺意(上)(下)』『魔王のささやき』、ジュディ・ブルーム『永遠の夏姉妹』、メアリ・シェルダン『母と娘の旅路』(以上すべて扶桑社)、アイビーン・ワイマン『カレッジの決断』(偕成社)★檜川哲次さん(67期)→自著『ブリッジ(プレイ&オークションの基本)』(河出書房新社)★金水敏さん(87期)→自著『ヴァーチャル日本語役割語の謎』(岩波書店)★石田優子さん(93期)→自著『ウェブ・ユーザビリティ&アクセシビリティ・ガイドライン』(毎日コミュニケーションズ)★蓑和田明さん(67期)→土屋英明(自著)『道教の房中術』(文芸春秋)★脇坂隆三さん(69期)→脇坂隆三+高田禎浩『企業映像入門』(映像新聞社)★藤部明子さん(98期)→自著『The Hotel Upstairs』(ステュディオ・パラボリカ)★里見英子さん(83期)→自著『女医さんの「シネマクリニック」』(東方出版)★岡田清治『リヨンで見た虹～稲畑勝太郎・評伝』(日刊工業新聞社)★梶山彦太郎+市原実『大阪平野のおいたち』(青木書店)





## 事務局の仕事

A 事務局ってどんな仕事をしているのって聞かれた事はない？

B ありますよ。同期の集まりなどで、どんな仕事をしているの？なんて

C 私はお手伝いに来て日が浅く、まだ総てを把握している訳ではないけれど、いろいろお仕事がありますよね。

B 会費納入やグッズなどのお買上げを入力したり、大事な住所変更や勤務先変更などの総て情報をデータベースに入れています。

C 外部に情報が洩れることがあれば大変！

A ほんと、慎重にしないとね。

B グッズのお買上は発送作業があり、これも早く

しないとイケないので結構大変ですよ。

D 私はホームページの事務局だよりを作っているだけで、週2時間の勤務だけど、皆さんいつも忙しいそうですね。他の仕事もお手伝いしたいのだけど、時間が取れなくて。

C 10時～5時と聞いていたのですが…。

A 5時に帰るのは結構難しい。(笑)

C 会計も大変でしょう？

A 募金は昨年終わったので、その部分は楽になりました。3月決算なのでこれからちょっと忙しくなりそー。

B 会報が出たあとは、会費を払い込んで下さる方が多いので忙しいです。入金が多ければ多いほど同窓会にとっては有難い事で、嬉しい忙しさです。

A 会報を発送すれば、また新たに住所不明で返送されてくるでしょうね。住所変更された方は必ず、変更を連絡して欲しいと何度もお願いしているのですが…。

B お電話で追いかけるのも、一日10軒くらいしか連絡が出来ない。若い方が不明になられると実家の方にお電話しますでしょ。これがなかなか大変ですよ。

C この春は私の仕事ね。(「頑張っ…」の声)

## ●ごあいさつ 事務局長退任にあたりまして

六稜同窓会前事務局長  
新原章弘(65期)



平成12年2月に、同窓会事務局長の任をお受けいたしました。昨年15年11月末日をもちまして、この任を退かせていただきました。

当初、2年間という任期でお受けしたのですが、会館建設という大事業が目前にあり、募金の期間延長等もあって、3年10ヶ月にわたる担当となりました。

その間、振り返ってみれば就任以来まる三年間の会館建設募金の推進、14年春から始まった会館建設工事と一年後15年3月の会館竣工、まさしく同窓会としての画期的な大事業にかかわり、気の

休まる暇のない務めでございました。

会館竣工後、大阪府への採納は3月中に済ませましたが、会館としての正式オープニングセレモニーは11月1日、北野高校創立130周年記念式典と同日にめでたく整えました。

この間、大過なく過ごさせていただけたのは、皆様方ご関係各位のご理解とご協力の賜物と、深甚の感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

同窓会としては、会館竣工とともに新たな六稜文化発信を手がけるべき、誠に重要な時期でございます。同窓会の目的である会員間の親睦、母校発展への寄与、そして社会公益への貢献、これらの課題を、六稜の皆様でぜひ守り続けて下さるようお願い申し上げまして、退任のご挨拶とさせていただきます。

北野高校および、六稜同窓会の今後の発展を祈念申し上げます。

## 会館の仕事

C 会館のお守も結構大変そうですね。

A 事務局と会館運営とは一応別という事になっているけど、実際は区別して仕事が出来ないのが現状。

B お掃除をする所が増えましたものね。

A 以前は事務局の中だけで良かったのに…。

何か催しがあって、大勢の方が来られる時はシルバーセンターからお掃除に来て貰っている。

C 少人数の方のご利用だったら、私達でお掃除していますよね。

B トイレが問題です！

C そお～。どうしてトイレが汚くなるのか？まあ、言っても仕方ないけど…。頻繁に見回りをしないと、汚れたままだったら感じが悪いし。

A 感激した事もあるよ。亡くなられたご主人が北野のご出身とおっしゃる奥様がお二人見えたでしょう。会館をご案内したら、募金者の記名板でお名前をでご覧になって記念写真を写され、わざわざお菓子を頂戴しましたね。

B 会費の払込用紙で、ご主人のご逝去をご連絡下さり、ご寄付を頂戴した方もいらっしゃいましたね。びっくりしました。

D 亡くなられたご主人は余程、北野がお好きだったのでしょうかね。

## これからの事務局

A 今、事務局長が不在で忙しいけれど、一人でも多くの方に会館へ来て頂きたいですね。

B 本当に。

C 事務局のスタッフも若い方が来てくださればいいのにね。

A 年齢制限を設ける？

D どんな方が来られるのか、楽しみ…。年齢幅は広い方がいいものね。

C 若いスタッフになれば、利用される方が増えて来るかも！

A 若い方の関心が年会費の増収に繋がる事を期待して…。

※おしゃべりスタッフ

久保田静(73期) 小林元子(73期)

藤本鈴乃(84期) 花井洋子(86期)

## ●スタッフ紹介

### 小林元子さん (73期)

昨年12月より同窓会事務局スタッフとなりましたが、ここでお手伝いをしている自分が不思議なくらい。

兵庫県の宝塚育ち（今は街になっていますが、田畑もあり、唱歌“春の小川”情景の中）中学から一緒の同期が居なかったせいもあり、女子より男子生徒数の多い北野では小さくなっていた、私です。

そもそも、久保田静さんが10年余り前、その当時始めたばかりのゴルフを、同期（73期）のゴルフコンペに誘って下さったのが縁で、ここに居るのだと思っています。

子供がいないもので暇だと思われて居ますが、



高齢である主人の両親（90歳、88歳、三重在住）の生活サポートに、月平均10日は出掛ける必要あり、主人の転勤で過ごした、仙台で5年の地方暮らしが身に着いている始末、家で楽しみ程度にやっていたパソコンワークが、はたして使い物に成るかどうか？ 会館のお世話など雑用部分を、少しでもやって行ければと、思うばかり。

趣味はガーデニング、映画鑑賞、ゴルフ、でもゴルフは10年前からそんなに上達もせず、何をやっても中途半端、はたして、事務局で厄介者の越前クラゲに化けるか？一寸美味しい中華前菜のクラゲに化けるか？

今後は同窓会の皆様の御期待に添えるよう頑張りたいと思います。（小林）





『谷崎潤一郎と大阪』上方文庫27  
三島佑一(60期) 著

# 六 稜 文 庫

このコーナーでは、六稜文庫に寄贈された書籍の中から、主に新刊書を中心に紹介いたします。(関連記事→p.23)



文春新書『道教の房中術～古代中国人の性愛秘法』  
土屋英明(67期) 著

単行本・225頁・ISBN4-7576-0236-7  
和泉書院・2,300円[税別]

新書・205頁・ISBN4-16-660320-5  
文芸春秋・680円[税別]

大阪らしい大阪を描いた作家はと問われて誰が思い浮びますか？ 織田作之助に今東光、藤本義一、野坂昭如、小松左京に山崎豊子、それに加えて宮本輝も…といったところでしょうか。川端康成や六稜出身の梶井基次郎・野間宏といった生粋の大阪人に大阪らしい作品が見あたらないのとは裏腹に『細雪』『春琴抄』で大阪を代表する作家と思われるがちな谷崎が東京出身であったのは意外に思われるかもしれません。その谷崎と大阪の風土との不思議な縁の核とも言うべき存在が、後に谷崎の三番目の妻となる船場の豪商根津商店の御寮人松子でした。船場生まれの著者が谷崎と松子、古川丁未子といった彼をとりまく女達との人間模様を『春琴抄』『葦刈』の誕生の秘密、物語の裏に隠された謎とからませながら綴ってゆく、その筆致には推理小説の頁をワクワクしながら繰っていく楽しささえ感じさせられたものでした。それにしても読了後、今までにもまして谷崎潤一郎という作家の得体の知れなさに溜息しきり、三島先輩に親しくお話を伺いたい思いの募る一冊です。

【北野高校 教頭・鎌田俊一・81期】

## ●六稜人の著書をご紹介します。

自薦・他薦を問いませんが、書店売りされている一般書籍（またはそれに準ずるもの）に限ります。研究論文・報告書・雑誌記事の類は除きます。自薦の場合は自署サイン本を2部「六稜文庫」まで御寄贈ください。他薦の場合は書誌データと紹介文（500字見当）を郵送または電子メールにてご一報ください。

【六稜文庫】 [books@rikuryo.or.jp](mailto:books@rikuryo.or.jp)  
〒532-0025 大阪市淀川区新北野2-5-13 府立北野高校内

半世紀昔にわれわれに強烈な影響を与えた恩師に漢文の福永光司先生がおられた。友人たちの中で中国文化研究という分野で活躍している者は稀有に等しいが、養和田明(筆名・土屋英明)君が最近『道教の房中術』なる著書を表し、陰陽五行説の一端を垣間見ることができ、旧友にこのような奇才がいたことを殊の外嬉しく思う。

彼の著書は約2500年前に中国で編み出された道教の房中長生術の歴史、理論、実際の技巧までを詳細に解説した入門書だ。人間の誕生(男女)と死が、<sup>タオ</sup>道(気)とつながることも理解できる。

道教の房中術は快楽追及の技巧だと誤解されていたが、実は不老長生を目指した養生法だ。自然と人体の法則を同じだと見なす「天人合一」観から、先人達は陰陽五行思想に基づく「精・気・神」の「三宝」が人体を動かす生命エネルギーだと考えていた。「天人合一」とは、人間の体は小宇宙だということだ。神経など目に見えない部分が人体の半分を占め、自然と繋がっている。その体を動かす目に見えないエネルギーを如何に体中に長く留めておくかと言うのが「房中長生術」なのだ。

道教では性(精)と心(神)を気で繋いで考える。脳に宿っている神は腎の精から養分を補給されないと力が弱る。神が精を管理できるのは精と気があるからだ。精・気・神は同じ力を持ち相互依存している。三位一体なのだ。そしてまた性技巧の方法は仙女である素女と玄女の教えが主体になっているのも面白く、男性に対する女性の教えなのだ。

【昭和26年入学時同級生・奈木 進・66期】



## 『こんな夜更けにバナナかよ』

～筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち～

渡辺一史(98期)

単行本・463頁・ISBN4-89453-247-6

北海道新聞社・1,800円[税別]

本書が単行本デビューとなる渡辺一史氏は北大在学中からライター活動を始め、一度も組織に属さず、北海道でキャリアを積んできた。旅の情報誌や自治体関連の印刷物など、どんな仕事でも手を抜かず、納得いくまで取材を重ねる「たたき上げ」のフリーライターである。本書も、完成までに3年を要した。テーマの重さに尻込みしながらも次第にのめり込み、最後の1年はこの仕事だけに専念してまとめ上げた苦心の日々が、率直に語られている。

本書は、札幌市内で在宅自立生活を送る筋ジス患者・鹿野靖明さんと、24時間体制で支える介助ボランティアとの交流や葛藤を描いたノンフィクション。渡辺氏がみずからもボランティアの一員となり、「わがままな」障害者である鹿野さんとそこに通う主婦や学生ボランティアたちの人生を丹念に聞き取った。鹿野さんは、原稿完成直前の昨年8月、42歳で亡くなった。この間の「シカノ邸」の様子はメディアでも取り上げられ、本書は発売直後から話題を集める。400ページを越す長編には障害者福祉の問題点を説き明かす詳細な注釈が付され、「圧倒的な広がり、深み」「普通の人を魅力的に描いて、ノンフィクションの新しいステージにある」と各方面から高い評価を受けている。

ありがちな美談ではなく、まったく新しい視点で「障害者」を描きながら人間関係の本質に迫る本書は、北海道から全国へ広がる問題作として注目を集めている。

【北海道新聞社図書編集部・仮屋志郎】



第20回東川賞 新人作家賞(内定)

## 写真集『The Hotel Upstairs』

藤部明子(98期)+アルフレッド・バーンバウム 著

菅 啓次郎 訳

単行本(重箱サイズ)・180頁・ISBN4-9900868-5-6

스튜디오・パラボリカ・2,800円[税別]

写真はそれ自身では語らない。全てはそれを観る側に委ねられる。例えばこの本を、アメリカの深刻な社会問題の啓発だと見做すか、単に外国の情景を撮った写真集だと思うかは、観測者の自由である。雑多、混沌、猥雑、悲哀、自由、憧憬。去来する言葉は幾様もあるだろう。

この本はサン・フランシスコ北海岸にあるレジデンシャル・ホテルの一つ『コロバス・ホテル』とそこに住まう人々とを藤部明子氏が1999年から撮ったものだ。「ホテルに住まう?」と疑問を抱く人もいるだろう。旅行者が泊まるようなホテルとは全く異なり、長期滞在(中には何十年も住む者もいる)を目的とする者が住まう。古いアパートを想像するほうが近いかもしれないが、そこがどんなであるかを知らなければ是非そのままこの本の頁をめくって頂きたい。面白さは倍増である。故に詳細は避けるが、ただ言えることは、藤部氏の被写体との距離の置き方やかれらに対する誠実な姿勢が心地好い、ということだ。

「最初はなんてことない道端の石でも蹴り続けている内に自分にとって段々大事な物になってくることもある」とは、あとがきに記された作者の恩師からの話だが、この本の人やモノや壁に、私たちは銘々の「石」を見つけるかもしれない。目を閉じた老女や錆びた洗面台や汚れた靴下。そこに、今蹴っているか、過去に蹴り続けていたか、はたまたこれから蹴るかもしれない石を見出すかは、各々に委ねられる贅沢な問いかけである。

【兵庫教育大 院生(4月から)・高村理佳・110期】





## 母校の窓

**第5回文芸祭**●2月10日、新大阪のメルパルクホールで第5回文化芸術祭の「講演・舞台発表部門」が開催されました。午前の部では上方文化評論家の福井栄一氏(97期)による講演「上方のもののけたち～如月に聴く楽しい怪談」が行なわれました。怪談に秘められた意外な事実の解説に生徒たちは熱心に聞き入り、講演最後の「九字の法」の紹介では客席のそこかしこに、呪文をメモする姿も見られました。午後には「ダンス・ダンス・ワールド」「第13回音楽フェスティバル」が盛大に行なわれました。また、2月12日から18日までは「展示発表部門」として、六校会館1Fと理科第一講義室を会場に、美術・書道・家庭・保健体育・総合学習の各授業作品を始め、文化系クラブの展示・発表が行なわれました。一般公開日には保護者の方も来校され、「舞台部門」同様、生徒の日頃の活動の成果に見入っておられました。

### ■平成15年度近畿大会・出場激励金(9月以降分)

#### 【山岳部】

●第49回近畿高校登山大会

[男子] 西村彰仁・田端俊大(3年)・浜中要輔(2年)・樋口真志(1年)

[女子] 田中理華・安井朋見・松本麻理恵・吉田瑠美(2年)

#### 【陸上競技部】

●第71回近畿陸上競技選手権大会

[男子400m] 藤井大輔(3年)

[女子4×400mリレー] 早川美緒(3年)・国府美奈子・平林明葉・寺川加奈子・吉田朋代・三野愛菜(2年)

●第36回近畿高等学校陸上競技対校選手権大会

[女子4×400mリレー] 郭 杏奈・国府美奈子・三野愛菜・寺川加奈子・平林明葉・吉田朋代(2年)

[女子走高跳] 鈴木奈美(1年)

※以上の団体及び個人に対して、規定に従って激励金が授与されました。有難うございました。

### ■表彰報告

クラブ活動を通じて表彰を受けたものはクラブだよりに報告されていますが、ここでは、そのほかの外部表彰を受けた活動をご報告いたします。

●第42回全国高等学校英作文コンテスト[2・3年の部]優秀賞(全国5名)

愛須 恵・末包明日香(2年)

[課題]What Should We Do for the Peaceful World?

### ■国際交流活動報告

3/13～3/29の日程で、恒例のケントウッド高校への派遣訪問が行われます。派遣団は2年生5名(男子2名、

女子3名)と教員1名(体育科・中林秀道教諭)です。ケント地区の「桜祭り」への参加も予定しています。

昨年度は、共に交流を進めている阿武野高校の創立20周年に合わせてバスケットチームを受け入れ、7名の生徒を派遣しました。今年度は6月の受け入れが4名、今回の派遣が1名増の5名と、ほぼ従来の規模ですが、少しずつ交流の輪を広げています。

また、こうした派遣生の交換が10年を越えました。クラスによっては、オーラルの授業でケント生とレター交換の試みもあります。本校での国際交流を、これまでの実績の上に、さらに広い視野に立って進めていく機が熟してきたようであります。

### ■おくやみ

柏尾洋介先生(社会科 S41～H3 享年76才)が平成15年9月9日にご逝去になりました。

井内嘉美先生(社会科 S31～S38)が平成15年12月17日にご逝去になりました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

### 116期★学年理事選出

去る12月22日、本年3月卒業の116期生各クラス幹事(予定者)の中から、話し合いにより学年正副理事(予定者)が選出されました。

学年正副理事および各クラス幹事を始めとする116期生の皆さんの同窓会活動への積極的な参加を期待するとともに、先輩諸氏のご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

#### 【学年正副理事】

理事 山崎哲司・服部友紀

副理事 中井 亮・阪井万裕

#### 【クラス幹事】

(1組) 中根大輔・阪井万裕

(2組) 辻 優也・高田 芳

(3組) 木谷祐輔・三宅綾子

(4組) 山地祥隆・高梨愛子

(5組) 関谷 優・小川真央

(6組) 中井 亮・服部友紀

(7組) 山崎哲司・井上奈弓

(8組) 渡辺大祐・江本 舞

(9組) 原 健人・高橋裕子



▲116期学年理事の精鋭たち

## ■クラブだより

.....運動部(50音順)

**【合気道部】** 現在部員は2年生男子5名・女子4名、1年生男子4名・女子9名の計22名です。練習は主に平日のみで、昼・放課後は毎日練習をしています。また月に一度師範の先生に練習を付けていただいています。その日にはOB・OGの方もたくさん来られるので、普段よりも密度の高い練習が出来る、とてもうれしく思っています。部員一人一人がそれぞれ課題を持って常に上のレベルを目指し、日々練習に励んでいます。六稜祭では演武会を催し、日頃の成果を発揮しています。これからもそれぞれの目標に向かってがんばっていきますので、先輩の方々も是非ご指導にいらして下さい。部員一同心よりお待ちしております。

**【応援部】** 現在部員0。休部状態で廃部の危機に瀕している。夏の高校野球府予選などの応援は野球部員有志、体育大会のクラブ行進の折りの応援披露は運動部キャプテンの協力によって継続されている。応援部の復活はひとえに運動部の躍進にかかっている。奮起せよ、六稜健児!

**【器械体操部】** OB・OGさんのご指導のおかげで、だいが技術も向上し、感謝しています。これからもよろしくお願いします。

[府立高校体操競技技術研修会](7月)

男子種目別: 床3位/跳馬4位

女子団体: 総合5位

[2部・3部大会](8月)

男子2部種目別: 床優勝

女子2部個人: 総合6位/団体総合6位

[新人大会](11月)

男子2部: 個人総合5位

女子2部: 個人総合4位/団体総合2位

**【剣道部】** 3年生が引退し、また今年も世代交代がありました。今から一年間、残った1・2年生で先輩方やOBさん方の教えを忘れず、しっかり頑張っていきます。そして全国大会に出場できるように一生懸命稽古に励んでいきます。今年の剣道部の活躍にご期待ください!!

[大阪総合体育大会]

団体: 男子=1回戦敗退

女子=1回戦敗退

[新人大会]

団体: 男子=予選敗退

女子=予選敗退

個人: 男子=ベスト16 2名

女子=4回戦敗退

**【硬式野球部】** 秋の大会は負けてしまいましたが、三校リーグは優勝することができましたので、このまま勢いに乗って春に良い成績を残したい

と思います。そして、夏の大会には勝ち進んでいきたいと思っています。

[天王寺定期戦](7/6)

●10-13天王寺

[夏季大会](7/12)

1回戦●3-8東淀川

<新チーム成績>

[秋季大会](9/7)

1回戦●6-15関西創価

[三校リーグ](11/23)

○6-4八尾

○4x-3市岡 優勝 北野

**【サッカー部】** 毎日の練習や試合を通して自分たちのスタイルが公式戦で発揮できるように努力しています。これからも応援よろしくをお願いします。なお、新年早々の新人戦1回戦の相手が清風高校ということで、皆合いが入っています。

[天王寺高校定期戦](8月)

○3-0

[選手権戦](9月)

2回戦○5-1桜塚

3回戦●4-4PK負け城東工業

[膳所高校定期戦](11月)

○1-0

**【山岳部】** 今年の夏山は7月30日から8月2日まで、白馬岳に行きました。白馬岳の大雪渓は素晴らしかったです。また、今年は久しぶりに近畿大会にも出場し、好成績を収めることができました。現在は次の山行の計画を立て、また春の大会のために練習を重ねています。部員は常に募集しています。

[近畿登山大会](10/13・14)

男子A隊=2位

女子C隊=3位

[大阪府秋季登山大会](11/1)

男子A隊=3位

女子B隊=1位

団体=2位

**【柔道部】** (OBさんへ)部員が少なく、試合でよい成績を残すことができていません。楽しく練習していますが、やはりそれだけでは…。強くなるために少しでもご指導いただければ幸いです。

[合宿] 7/23~27

[高校総体個人](7/29) 3回戦敗退

[高校総体団体](7/30) 出場

[第53回大阪府高等学校新人柔道大会北地区大会]

団体(11/4)=1回戦敗退

個人(11/22)=1回戦敗退

[第24回大阪市北地区柔道大会](11/9)

個人=1回戦敗退

団体=1回戦敗退

[部員] 1年生3名、2年生7名

(2004年1月9日現在)

[活動時間] 平日15:30~17:30

土曜日13:30~16:00

**【水泳部】** 各大会の結果は下に記したとおりですが、新人戦においては、あと少しで決勝行きという人も多数いて、ここに来てクラブ員全体の泳力向上が見られたと思います。現在はオフシーズンですが、来シーズンへ向けての体力の維持、向上に努めています。

[高校対抗] (なみはやドーム)

男子: 200m個人メドレー3位

女子: 50mバタフライ5位

100mバタフライ6位

[新人戦] (大阪プール)

男子: 200m個人メドレー4位

50m平泳ぎ7位

**【ソフトボール部】** この春部員が全員卒業します。部を途絶えさせることになり、とても残念です。試合や練習、合宿に応援に来てくれた先輩方や、助っ人として試合に出てくれた人たちのおかげで、最後まで北野ソフト部として公式戦に出られたことへの感謝の気持ちを忘れずに、早く私たちも先輩として復活したソフト部を応援する日が来ることを願っています。今まで応援ありがとうございました。(部員一同)

**【卓球部】** 昨年のダブルス近畿大会出場に続くように毎日猛練習中です!!

[大阪高校新人大会]

男子シングルス=2回戦

男子ダブルス=2回戦

男子団体=2回戦

[大阪高校総体]

男子団体=2回戦

[普及大会(チャレンジカップ)]

男子1部3位 トーナメント=3回戦

[活動日]

月曜日・隔週木曜日がトレーニング、火曜日・隔週木曜日が体育館1階剣道場、水曜日・金曜日が体育館2階で練習しています。

**【女子テニス部】** 新コートができ、毎日学校のコートで活動しています。2003年11月には、OB・OGさんとの親善試合を行いました。

**【男子テニス部】**

[大阪高校総体]

シングルス=本選出場

[赤坂杯] (秋)

シングルス=本選出場

ダブルス=本選出場

**【女子バスケットボール部】** 2年生7人、1年生6人(うちマネージャー1名)、計13人で活動しています。新しいコートを迎え、新しい気持ちで毎日必死に頑張っています。部員が少ないので、ぜひ練習をしに来て下さい  
[大阪総体地区予選](8/11)  
1回戦○37-30附属池田



2回戦●29-80春日丘  
[北地区公立校大会](10月~11月)  
2勝3敗 予選リーグ敗退

【男子バスケットボール部】 僕たちは顧問の先生やOBさんたちの熱心な指導のもとに、毎日練習を重ね、自分たちの満足できるプレイを目指しています。ぜひ一度練習を見に来てください。

[大阪高校総体](8/12)  
1回戦○106-48阿武野  
2回戦●49-130大商学園  
[北地区公立高校大会](10/26~11/9)  
4勝2敗/ブロック3位  
[OB戦](11/13)  
●55-67  
[大阪強化リーグ](12/27・28)  
4勝1敗

【バドミントン部】 2年生16人、1年生12人で楽しく頑張っています。毎日朝練、昼練、放練を欠かさずしています。最大の目標はインターハイ出場です。OB・OGの皆さんが指導をしに来て下されば嬉しいです。僕たちの技術向上のために力を貸して下さい。お待ちしております。

[第58回大阪高等学校総合体育大会]  
女子シングルスCの部=6回戦進出  
[秋季豊能地区大会]

男子：ダブルス上級=3位  
シングルス上級=ベスト8  
女子：ダブルス初級=ベスト8

【女子バレーボール部】 春の部別に向けて、部員全員一丸となって頑張ります。

[大阪高校総合体育大会]  
○2-1島本  
●0-2関大ー  
[大阪府立高校大会]  
・予選リーグ  
○2-1桜塚  
○2-1吹田東  
○2-1東豊中  
・決勝リーグ  
○2-1港  
○2-1東住吉  
●0-2南寝屋川  
[秋季部別]  
●0-2堺西

【男子バレーボール部】

[天高戦](7/6)  
●0-2天王寺  
[大阪総体](7/29)  
○2-0島本・高槻南  
●1-2星翔  
[大阪府立大会]  
予選 ○2-0箕面  
○2-0池田北  
○2-0高槻北  
決勝トーナメント(8/18)  
○2-0東住吉

●0-2刀根山  
[大阪高校新人大会(部別)](11/16)  
●0-2大阪学院  
●1-2生野  
○2-1城東工業 1部3位

【女子ハンドボール部】 現在1年生14人、2年生10人でOBさんの指導の下、練習を行っています。1年・2年の仲が良く、皆でブロック大会1位通過、近畿大会出場を目指して頑張っています。立派に完成したハンドボールコートで放課後毎日練習していますので、OGの方々、是非来てください。

[天高戦](6/29)  
○7-4天王寺  
[ブロック大会](8/4~6)  
○11-4茨木  
●6-8箕面  
○18-7東豊中  
●7-22福島女子  
[ブロック大会](10/11・12、11/1・2)  
○11-7金蘭会  
○8-3千里  
○11-9北千里  
●3-15箕面  
●6-12金蘭会  
[中央大会](11/15)  
●9-26城南

【男子ハンドボール部】

[秋季大会]  
ブロック大会 4位で通過し、8月12日に中央大会に出場しました。  
中央大会●9-45桃山学院  
[新人大会(ブロック大会)](10/11・12)  
○22-10野崎  
●19-24大阪学院

【ラグビー部】 毎日きびしい練習に励んでいます。夏には2回の合宿があり、辛く苦しい時もありますが、部員一同「花園出場」を目標に頑張ります。

[定期戦]  
(8/16)●7-26早稲田  
(8/24)●0-41神戸  
(10/26)○34-0天高  
[秋季大会]  
1回戦(9/21)○48-5履正社  
2回戦(9/28)○22-15生野  
3回戦(11/2) 12-12大工大  
<今後の予定>  
[新人戦]1/18 1回戦VS池田北・渋谷合同チーム、1/25 2回戦、2/1 準決勝、2/8決勝

【陸上競技部】 基本的に日曜日と試合の翌日はoffです。日々、全国大会を目指して頑張っています。2003年は先輩があと少しのところで全国を逃したので、今年こそは全国にいけるように頑張ります。高校に入って初めて陸上をする人も部員の中にたくさんいるので、一度見に来てください。主な記録は以下の通りです。

[大阪 1・H (1・H中央)]  
男子:400m決勝51"04  
4×100mR決勝42"29  
200m準決勝22"45  
女子:200m準決勝27"62  
走高跳決勝1m53  
400mH決勝68"74  
400m準決勝62"49  
4×400mR準決勝4'13"53  
走高跳決勝1m53

[近畿1・H]  
男子:400mR準決勝42"80  
[大阪総体 (総体本選)]  
男子:200m決勝7位23"13  
5000m決勝18'17"30  
4×100mR準決勝44"47  
4×400mR準決勝3'48"35  
女子:4×100mR準決勝53"96  
4×400mR決勝4'16"78  
3000m決勝12'52"13  
[秋季大会] ベスト8  
[前期大阪高校陸上競技] ベスト20  
男子:400m11位49"86  
4×100mR18位42"29  
4×400mR15位3'26"55  
女子:800m18位2'25"29  
4×400mR12位4'12"40  
走高跳5位1m55 同8位1m53

.....文化部(50音順)  
【ESS】 毎週一回、主に木曜日に活動しています。ALTのフランチエスカギスト先生と英語の歌を歌ったり、映画を英語で見たり、クリスマスパーティーをしたりして、楽しんでいきます。今、一年生の部員が急増中です。来年度はスピーチコンテストにも挑戦してみたいと思っています。

【囲碁将棋部】 現在、休休みと金曜日の放課後（金曜放課後には囲碁の先生が来られます）に地学教室で活動しています。常に部員募集中。  
ー活動記録（成績）ー  
[2/2 第23回大阪府高等学校芸術文化祭] 囲碁部門Hブロック1位  
[5/10・11 第27回大阪府高等学校囲碁選手権大会]  
男子：個人=4位  
団体(男子のみ)=3位  
女子：個人=4位  
[5/31・6/1 第27回大阪府中・高等学校将棋選手権大会]  
男子：個人・団体出場  
[10/25,26 第21回大阪府高等学校囲碁新人大会]  
男子：個人参加 女子：団体準優勝

【演劇部】 現在部員1名となっけし、六稜祭以後、主な活動はしていません。

【オーケストラ部】 私たちオーケストラ部は1年生20名、2年生25名、3年

生26名で、現在は1・2年生45名で活動中です。毎週月～土に音楽室にて練習しています。

12/25クリスマス会

1/11扇町教会にて音楽礼拝に参加

2/1大阪府高校芸術文化祭

ドヴォルザーク作曲「スラブ舞曲第一集」第三番、ハイドン作曲「天地創造」より終曲、リチャードカーペンター他作曲「青春の輝き」

2/10 北野高校文化芸術祭

ドヴォルザーク作曲「スラブ舞曲第一集」第三番、久石譲作曲「となりのトトロ」、ヘンデル作曲「ハレルヤ」、ハイドン作曲「天地創造」より終曲、リチャードカーペンター他作曲「青春の輝き」

【化学研究部】私たち1年生4名は、毎週月・火・金曜日に化学実験室で活動しています。2003年は六稜祭後、7月に1回、11月に2回、中学生を対象とした「1日体験化学ラボ」を実施し、9月には豊中教育センターの理科展にて発表しました。現在は、2003年に引き続き、ヨウ素デンプン反応について調べています。また、炎色反応ろそく、振動反応などについても研究中です。

#### 【コーラス部】

【第4回北野高校コーラス部フェスティバル】(8/3)

第1ステージ●混声合唱曲集「うたよ！」

- 1.うたよ！ 2.よかったなあ
- 3.もうすんだとすれば
- 4.おんがく 5.きこえてくる

第2ステージ●アラカルト・ステージ

- 1.北極星の子守歌 2.Maria
- 3.One Hand, One Heart
- 4.Alleluia

第3ステージ●混声合唱のための「マザーグースのうた」

- 1.ばらはあかい
- 2.ゆくゆくあるいて[1]
- 3.ソロモン・グランディ
- 4.ほねとかわのおんながいた
- 5.くきがふそくて
- 6.ゆくゆくあるいて[2]
- 7.十人のはだかのこども
- 8.ゴータムむらの
- 9.ゆくゆくあるいて[3]

アンコール

- 1.なぎさ歩めば 2.北野高校校歌  
(アカペラバージョン)

【写真部】2003年は球技大会や体育大会などのイベント時に主に活動しました。これからはさらに部員を増やし、積極的に活動していきます。

【書道部】現在部員は全部で5人で、毎週月曜日に活動しています。文化芸術祭、六稜祭に作品を出品します。

【新聞部】部員0。崖っぷち状態の六稜新聞部です。なにとぞよろしくお願ひします。(切実です)

【吹奏楽部】私たち吹奏楽部は校内最多の部員数を誇っています。そのため、いつでも元気いっぱいです。よりよい演奏を目指して、個人個人が技術の向上を心がけています。主に多目的ホールで練習していますので、ぜひお立ち寄りください。

【大阪府吹奏楽コンクール北地区大会】(7/30)

銀賞受賞「ウィナーズー吹奏楽のための行進曲」「メジャーバーバラ」

【体育大会】(10/4)

ファンファーレ、行進曲演奏

【創立130周年式典】(11/1)

ファンファーレ、「鉄腕アトム」「K点を越えて」「76本のトロンボーン」演奏

【第1学区音楽会】

(池田市アゼリアホール 11/2)

「セドナ」「76本のトロンボーン」

【大阪府高校音楽会】

(池田市アゼリアホール 11/23)

「メリーウィドウ」

【第30回大阪府アンサンブルコンテスト】(12/23)

金管八重奏「晴れた日は恋人と市場へ」金賞 クラリネット五重奏「カプリス」金賞

【生物研究部】今までの組織培養に加え、淀川での水鳥調査なども行っています。キクの組織培養は順調に進み現在花が咲いています。2003年春に発行した「LUPE」39号はまだ在庫がありますので、郵送を希望される方はご連絡ください。2004年春には40号を発行する予定です。

【大阪府高等学校生徒生物研究発表会】(11/23)

「数種の植物からの組織培養」

「キクの組織培養 一年間の記録」

【美術部】現在2004年1月のコンクール展、ブロック展に向けて日々奮闘中です。夏以降も更に部員が増え、2ヶタを突破し、にぎやかに活動中です。

【8月末 高校展】

油絵6点を出品。油絵1点が奨励賞に選ばれました。1年生が4人も入ったので、6点も出品することができました。

【9月 水泳大会】

プログラム表紙制作(2年)

【10月 体育大会】

プログラム表紙制作(2年)看板制作(1年) 1年生初めての合作ということで、いろいろな新しい試みをしました。粘土が落ちてしまったりなどのトラブルもありましたが、何とか完成させました。

【文芸部】2004年も2月10日の文化芸術祭の日に「幻」を発刊する予定です。

部員が6人と大幅にUP☆し、にぎやかなクラブになりました。個性豊かな作品が多いので楽しめることまちがいなし！ぜひぜひ文化芸術祭の日に発刊する「幻」を読んで、入部しましょう。(ストレートすぎ！) 毎週金曜日の放課後、食堂のバレリーナの絵の前で集まっていますので、声をかけてください。

【放送部】9月に新たに1年生が1人入部したので、現在部員7名で活動しています。部員の数が増えたので、今まで週2回行っていた昼休みの「お昼の放送」を(月)～(金)の週5回に増やして、分担で行うことにしました☆たくさんのリクエストにも、できるだけ応えていきたいと思っています。

【水泳大会】(9/10・11) アナウンス

【体育大会】(10/4) アナウンス

【北野高校創立130周年記念音楽会】

(11/1) 司会進行



平井 歩 (美術部・2年)



最初の赴任校は新設の北千里高校。そこで4年間勤務後、母校北野に帰ってきたのが昭和57年（1982年）。以来北野生活21年を経て今回の教頭就任である。担当は国語科、古文が専門だが現代文も漢文も教えた。



KAMADA Shun-ichi

北野の教育に情熱をたぎらせた青年教師もすでに五十路を越え、貫禄も出てきてすでに北野の顔でもある。

鎌田氏の教育信念のひとつに北野の伝統の継承がある。北野には「高校教育の亀鑑たるべし」という気概がいつもただよう。北野はこれまで教育方針についても必ずしも時流に合わず時に批判はあっても独特のものをつくり出して来たが、一方で「不易なるもの」の継承は全ての根底にある。

## 鎌田俊一 教頭（81期）の横顔

それが大きな仕事だった。

10年前の120周年記念行事では当時の教頭肥塚敏彰氏（72期）とのコンビで学校、同窓会、PTAの三者共催方式の仕事を仕上げた。総会終了後、期せずしておこった関係者による胸上げに感涙した氏の姿を思い出す。昨年の130周年では新教頭として無難に取り仕切ったことも当然であろう。

現役時代は応援部の熱血リーダー。「伝統の一戦」という言葉がまだ生き生きとしていた時代で、野球

部の市岡戦、ラグビーの天高戦などに生徒が結集した思い出を懐かしむ。当然、応援部の顧問として生徒を実地に指導して来た。新聞部の再建、誌面の刷新などの相談にも乗った。稲葉憲一郎先生のあとをついで女子ソフトボール部の指導にも力が入った。

六稜文化振興賞の選考委員は発足時から関わりスポーツに比べて陽の目をみる事の少ない六稜文化の発掘、顕彰には人一倍熱心だったが、最近文化部の活動がやや低調気味なのが気にかかるとも言う。氏が送り出した六稜生は本年3月ですでに3,000名を越えた。「北野から教えられたものを次の北野に継承することが私の使命」そして「そのために同窓会との連携がますます大切になる」と常々語る同氏への期待は大きい。（菅 正徳 69期）

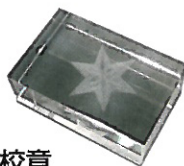
↓お申し込みは同封の専用振替用紙で。年会費の納入も併せてお願い致します。

130周年のお祝いに、多彩に揃った...

# 六稜グッズはいかがですか？



『130周年六稜同窓会名簿』  
B5判、1,016ページ  
5,000円●申込記号：MEI



六稜校章  
ペーパーウェイト  
6×4×2cm  
1,000円●申込記号：PWT

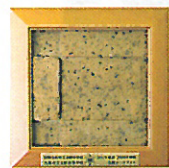


『六稜百三十年』  
B5判、127ページ  
2,000円●申込記号：130



新旧校舎ポストカード  
10枚組、特製ケース入り  
1,000円●申込記号：PSC

昭和校舎タイル  
18×18×3.5cm、約1kg  
●申込記号：STL



10,000円

『われら六稜人』シリーズ A5判、各1,500円

●申込記号：W98 ●申込記号：W99 ●申込記号：W00 ●申込記号：W01



『われら六稜人』4巻セット

●申込記号：W4S 4,000円



六稜会報  
No.42

発行日 平成16年3月1日  
発行者 稲畑勝雄  
編集委員 壽榮松正信・下村孝夫・  
谷 卓司・田村蒼大・  
矢野圭子

発行 六稜同窓会 <http://www.rikuryo.or.jp/>  
〒532-0025 大阪市淀川区新北野2-5-13 府立北野高校内  
phone.06-6306-0374 fax.06-6306-1335  
e-mail.office@rikuryo.or.jp  
郵便振替.00990-4-68025  
事務局 月・金（祝日は休）10:00～17:00 北野高校内

企画編集  
デザイン 有限会社ディアンドティ・デザインラボ  
<http://www.tdesign.co.jp/>  
〒530-0041 大阪市北区天神橋3-6-4 鶴屋ビル3F  
phone.06-6882-0512 fax.06-6242-0813  
印刷製本 株式会社シーズクリエイト  
〒536-0011 大阪市城東区放出西1-7-15  
phone.06-6969-6090 fax.06-6969-6089